

白馬村図書館等複合施設基本計画

令和2年3月31日

長野県 白馬村

目次

はじめに	1
第1章 基本計画策定の背景と目的	2
1. 背景と目的	2
2. 現在の白馬村図書館の概要（平成31年3月31日現在）	3
(1) 施設概要	3
(2) サービス内容	4
(3) 利用状況	4
第2章 白馬村図書館等複合施設基本構想の概要	6
1. 各種意見収集結果	6
(1) 住民アンケートの実施結果	6
(2) 住民ヒアリングの実施結果	7
(3) 住民ワークショップの実施結果	10
(4) 白馬村図書館施設検討委員会の結果	11
(5) 庁内検討の実施結果	12
(6) 有識者会議の実施結果	12
2. 基本構想概要	13
(1) 基本的な方針	14
(2) 新たな図書館等複合施設におけるコンセプト	15
(3) 新たな図書館等複合施設における機能	15
(4) スケジュール案	16
第3章 基本計画策定に向けた検討	18
1. 基本計画策定に向けた調査内容	18
(1) 機能の方向性を踏まえたニーズ調査	18
(2) 専門的な視点による建設候補地比較調査	32
(3) 現図書館の課題を踏まえた方針設定のための調査	38
2. 基本計画策定に向けた具体的な検討内容	39
(1) 検討機能と候補地選定に伴う有識者ヒアリング及び有識者会議の実施	39
(2) 官民連携手法に関する調査	41
(3) 建設候補地比較検討内容	47
第4章 基本計画内容	52
1. 新たな図書館等複合施設の整備方針	52
(1) 施設整備の基本方針	52
(2) 施設機能	52
(3) 施設規模	56
2. 具体的な施設機能	58
(1) 図書館機能	58
(2) 子育て支援機能	62
(3) その他機能	64
3. 今後の進め方と課題	65
(1) 今後の課題	65
(2) 今後のプロセス	67
参考資料 図書館参考先進事例集	68

はじめに

白馬村図書館は、明治 42 年の開設以来、長年にわたり公共施設の空きスペースを活用することで、サービスを提供してきました。現在の図書館は、施設規模が小さく、書架スペースや閲覧室・学習室等が十分に確保できないため、提供するサービスも限られる状況であり、新しい図書館の建設を望む住民からの声は、以前から多く挙げられていました。

また、本村の基本理念である「白馬の豊かさとは何かー多様であることから交流し学びあい成長する村ー」を実現するためには、多様な人々の交流を生み出す場やきっかけが必要となりますが、村内には、多くの人が気軽に立ち寄って集うことができる施設がないことも、課題として挙げられています。

公共施設については、今後の人口動態や財政状況を考えると、複合化・集約化を検討することが望ましいことに加え、親和性が高い機能を包含することにより、相乗効果を生み出すことも期待されることから、「図書館等複合施設」として、どのような機能を有する施設が白馬村に求められているのか、多角的に検討を進めてきました。

平成 30 年度には、平成 29 年度から開催している「白馬村図書館施設検討委員会」の答申、住民参加のワークショップ、住民アンケート、関係者へのヒアリング、同年度に開催した「白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議」等で出された意見及びアイデアを総合的に勘案してまとめた「白馬村図書館等複合施設基本構想」を策定しました。

これは、施設の建設及び運営に向けて基本的な概念と方針を示した上で、考えられる機能等をまとめ、建物の計画や設計を具体的に進めるために、ガイドラインとしての役割を担うとともに、設計後の建設や運営も含めて、最上位に位置づけられる価値判断基準であり、意思決定や合意形成において重要な指針となるものとして策定したものです。

本基本計画においては、昨年度策定した基本構想を軸に、土地の選定、具体的な導入機能の検討、官民連携手法導入の可能性調査等を行い、白馬村の新たな図書館等複合施設の実現に向けて、より具体的に方針及び計画をまとめたものとして策定します。

本村の目指すべき未来に向けて、多くの人々が集い、一人ひとりが成長し活躍できる拠点となるよう、今後も事業を進めていきます。



第Ⅰ章 基本計画策定の背景と目的

Ⅰ. 背景と目的

白馬村では、第5次総合計画において、「白馬の豊かさとは何か―多様であることから交流し学びあい成長する村―」を基本理念に掲げ、生きがいづくりや生活の質の向上のために、幅広い年代において住民が主体的に学び続けることで、「一人ひとりが成長し活躍できる村」を目指しています。

図書館は、住民にとって「知を集積する施設」であるのはもちろんのこと、「図書館法」（昭和25年法律第118号）第3条に定められているように、「図書館奉仕」を目的として設置・運営されるものですが、現在の白馬村図書館は、平成10年に旧長野地方法務局大町支局白馬出張所を後継利用する形で、必要最小限の改修を加えて開設したものであることから、図書館本来のサービスの充実・向上を行うことにおいて、多数の制約や課題を有する状況となっています。

「白馬村第5次総合計画」、「白馬村総合戦略」、「白馬村図書館基本計画」等において、「学びあい育てあう村づくり」の中心的な施設となる新しい図書館の建設を施策として掲げ、平成29年7月に「白馬村図書館施設検討委員会」を設置するとともに、住民参加型のワークショップ等を開催してきました。

また、国内外からの移住者や二地域居住者など多様な人々が暮らす地域でありながらも、気軽に立ち寄り集う施設がないために、地区や世代、国籍を超えた交流が生み出されず、コミュニティが固定化・硬直化していることもまちづくりの課題として挙げられ、交流の場を求める声が多く寄せられています。

さらに、建設後の運営費を抑制するとともに、相乗効果を生み出すような機能を併せ持つことにより、多くの人々の交流を創出することが期待されるため、図書館単独ではなく、複合施設としての整備を検討することとしました。住民が望む図書館機能及び多様な人々が交流するために必要な機能、さらには本村のまちづくりを推進するための拠点とするため、新たな図書館等複合施設のあり方を検討しました。

新たな図書館等複合施設については、白馬村の人口推移や財政状況を踏まえ、中長期的な視点を持ち、将来にわたって住民の教育と文化の発展に寄与できる図書館機能に加えて、現在白馬村に不足している施設・サービス等を複合的に備えた施設とする必要があります。

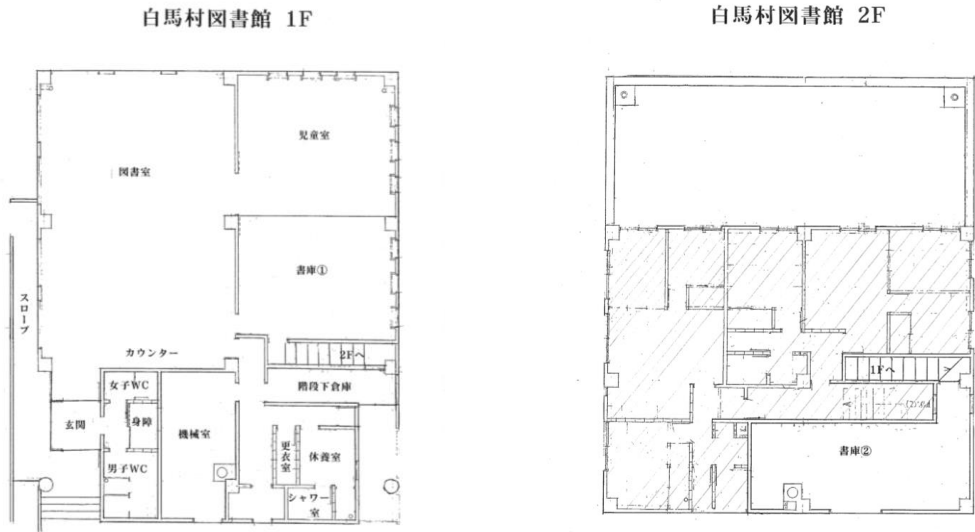
合理的かつ効果的で、人々の交流を生み出す新たな図書館等複合施設の基本計画及び設計の礎とすることを目的として、平成 30 年度に基本構想を策定しました。令和元年度としては、基本構想を軸としながら、新たな図書館等複合施設の整備に向けて必要な調査及び検討を重ね、具体的な計画として、基本計画を策定します。

2. 現在の白馬村図書館の概要（平成 31 年 3 月 31 日現在）

（1）施設概要

開設日	平成 10 年 10 月 8 日 （旧長野地方法務局大町支局白馬出張所の建物を後継利用）	
建物	昭和 62 年 12 月 10 日築 鉄筋コンクリート造 1 階 285.23 m ² 2 階 188.58 m ² 計 473.81 m ² （図書館専有面積 398.2 m ² ）	
職員数	4 名	兼任 1 名（図書館長兼生涯学習スポーツ課長、司書資格なし）
		嘱託職員 2 名（司書資格あり）
		臨時職員 1 名（司書資格あり）
開館時間	午前 9 時から午後 6 時まで	
休館日	月曜日、祝日、年末年始、毎月最終金曜日、蔵書点検期間	

【図表 1 現在の白馬村図書館の平面図】



【図表2 現在の白馬村図書館の外観】



【図表3 現在の白馬村図書館の館内】



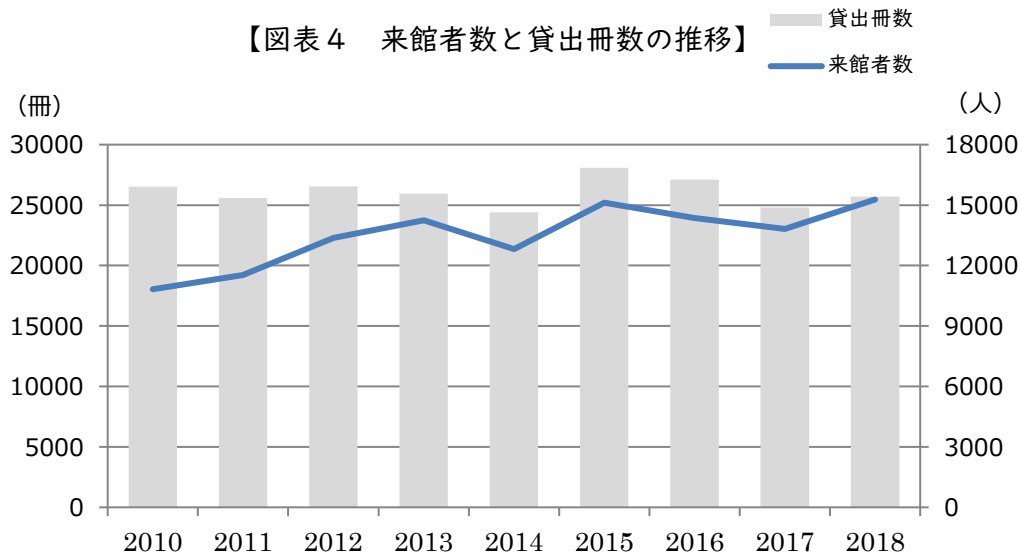
(2) サービス内容

貸出冊数	ひとり 10 冊（うち視聴覚資料 3 点）まで
貸出期間	3 週間
団体貸出	100 冊まで 60 日間（村内の団体のみ）
蔵書冊数	54,671 冊（視聴覚資料及び雑誌を含む）
開架図書	25,188 冊 視聴覚資料 440 点（平成 31 年 3 月 31 日時点）
新聞	3 紙（朝日新聞、信濃毎日新聞、大系タイムス）
その他	館内閲覧用視聴覚資料再生プレーヤー 3 台 大北地域の図書館の相互利用（どの図書館でも返却可能） レファレンスサービス（※利用者の求める情報を図書館が提供する）

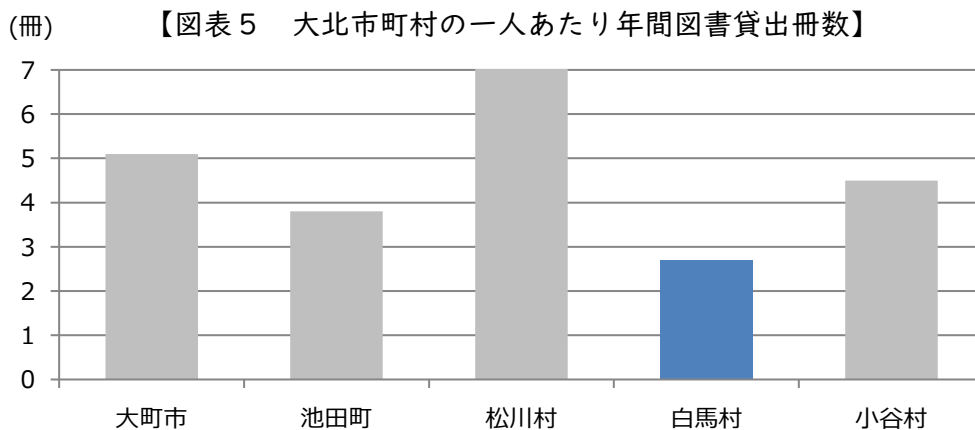
(3) 利用状況

登録者数	2,708 人（平成 31 年 3 月 31 日現在）
来館者数	15,274 人（平成 30 年度実績）
貸出冊数	25,710 冊（平成 30 年度実績）

【図表4 来館者数と貸出冊数の推移】



【図表5 大北市町村の一人あたり年間図書貸出冊数】



平成 30 年度の大北市町村の一人あたりの年間図書貸出冊数は、大町市 5.1 冊、池田町 3.8 冊、松川村 7.1 冊、小谷村 4.5 冊、白馬村 2.7 冊である。白馬村の一人あたり年間図書貸出冊数が少ない理由として、人口で見ると一人あたりの蔵書冊数が、大町市 4.8 冊、池田町 7.0 冊、松川村 6.6 冊、小谷村 10.0 冊に対して、白馬村は 5.6 冊で蔵書冊数が少ないことが考えられる。

また、開架率は、大町市 74%、池田町 62%、松川村 85%、小谷村 82%に対して、白馬村は 47%とかなり低い。

資料が少なく、開架率が低いことから、白馬村の図書館を利用せずに、大町市など他の図書館を利用していることなどが影響して、白馬村が他よりも少ない結果となっていると考えられる。

第2章 白馬村図書館等複合施設基本構想の概要

白馬村では、新たな図書館等複合施設の検討にあたり、平成30年度に「白馬村図書館等複合施設基本構想」を策定しました。本基本計画の策定の礎として策定した基本構想の内容について、要点を整理します。

1. 各種意見収集結果

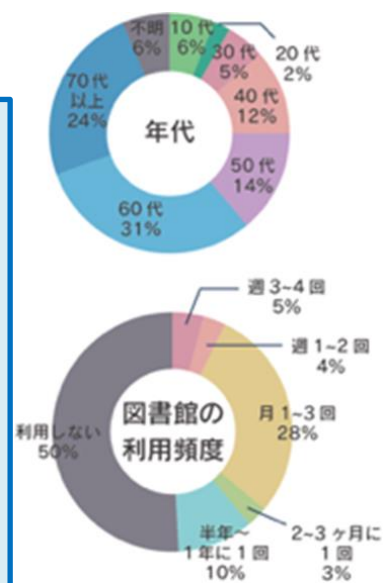
基本構想の策定にあたっては、白馬村の新たな図書館等複合施設の整備に向けた意見収集の取組みとして、(1)住民アンケートの実施結果、(2)住民ヒアリングの実施結果、(3)住民ワークショップの実施結果、(4)図書館施設検討委員会の実施結果、(5)庁内検討の実施結果、(6)有識者会議の実施結果、の6つの実施結果を踏まえた基本構想として策定しています。

(1) 住民アンケートの実施結果

白馬村では、住民の声を広く聴くことを目的として「白馬村図書館等複合施設の建設検討に関するアンケート」を実施し、95名から回答を得ました。アンケートの設問としては、次の5つを設定しました。

- ①あなたが思う白馬村の良いところ・好きなところを教えてください。
- ②白馬村の課題や問題点があれば教えてください。
- ③白馬村の図書館はどのような図書館であって欲しいと思いますか。
- ④図書館を含む複合施設にはどのような施設・機能があれば良いと思いますか。
- ⑤白馬村の課題解決のために図書館等複合施設に期待することを教えてください。

【図表6 アンケート結果】



アンケート結果として、次のようなことがわかりました。

- ①豊かな自然と多様で温かい人々が魅力であること。
- ②子どもの遊び場や芸術・文化も含めて雨天時に楽しむことがないこと。
- ③誰もが気軽に立ち寄れて学びや寛ぎ・安らぎが得られる図書館が望まれていること。
- ④子育て支援施設や芸術・文化施設の複合化を望む声が多いこと。
- ⑤多様な人がつながり協働する施設、夜間も利用できる施設、次世代への負担を和らげる施設が期待されていること。

（２）住民ヒアリングの実施結果

宿泊関係者やまちづくり関係者、子育て中の母親等に対して、今の白馬村をどのように感じているのかを知るために、アンケートに加えて、直接対話のヒアリングを行いました。主に宿泊関係者や子育て中の母親など住民 11 名（男性 3 名、女性 8 名、年齢 30～70 代）に対して、今の白馬村や白馬村図書館をどのように感じているかを尋ねました。

ヒアリング内容は、①白馬村に対する意見、②白馬村図書館に対する意見、③新たな図書館等複合施設に対する意見（空間／複合する機能／建設場所）についての主に 3 つの視点を重視して実施しました。ヒアリング結果は、次のとおりです。

①白馬村に対する意見

- ・気軽に立ち寄れる交流の場がない。
- ・「山岳」という視点において「稼ぐ」ことよりも「文化」を大切にして欲しい。
- ・医療機関が少ない。

②白馬村図書館に対する意見

- ・学習室がない。
- ・多くの人が大町市立大町図書館を利用している。
- ・雨や雪など天候が悪い時に図書館を利用したいが狭い。
- ・山のことをよく聞かれるので、山岳に関係する本を揃えて欲しい。
- ・JR 白馬駅と図書館とで複合的に資料を見せていくような取り組みをして欲しい。

③新たな図書館等複合施設に求めるもの

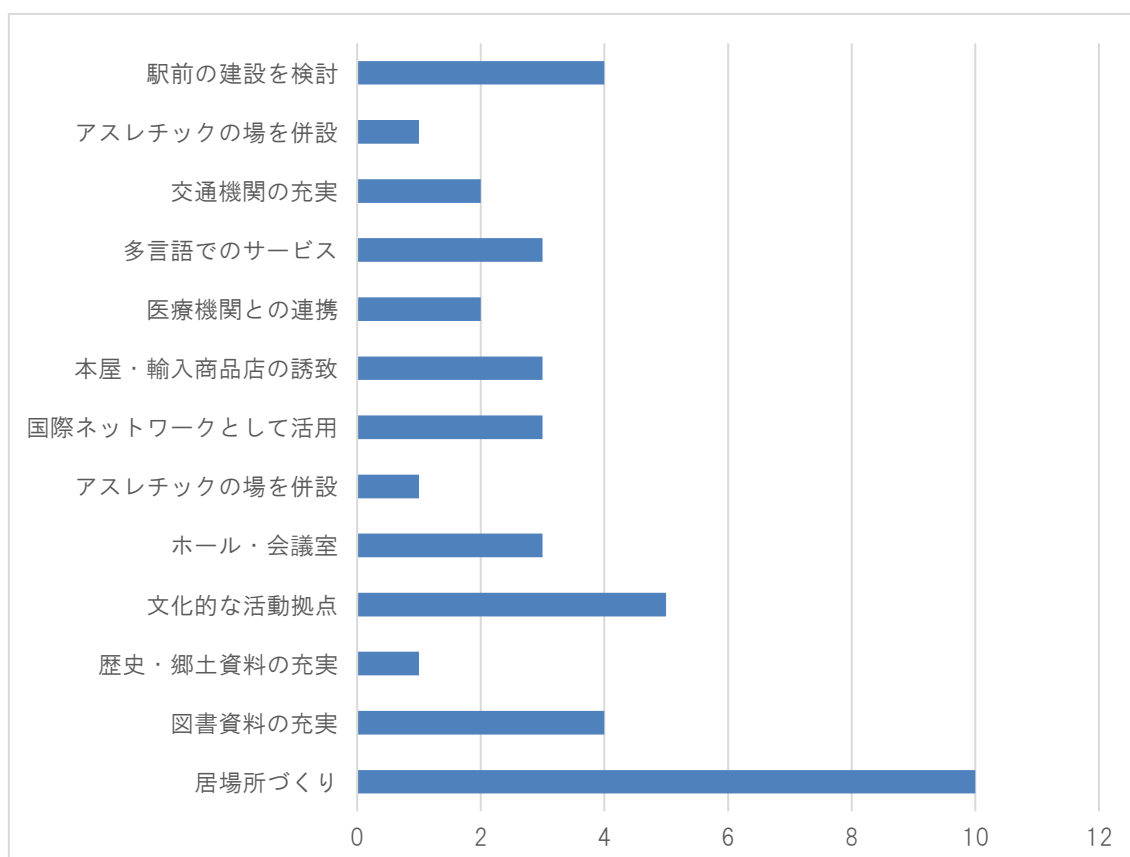
(ア) 空間に関する意見	・ 北アルプスの眺望を楽しめるスペースを大切にしたい。 ・ 一人で楽しむ時間を過ごせる場所が欲しい。 ・ 待合場所としての機能する場になって欲しい。 ・ 忙しい村民が多いのでお昼寝スペースなどゆったり休める場所が欲しい。 ・ 文化的な雰囲気の中で過ごしたい。
(イ)複合する機能に関する意見	・ 村内にない小児科、産婦人科、耳鼻科、眼科等を併設して欲しい。 ・ 本が買える複合施設であって欲しい。 ・ アートスペースが欲しい。 ・ ものづくりをしている方が多いので、発表の場・ビジネスの場となって欲しい。 ・ 図書館＋シアター＋カフェがあれば人が集まりそう。 ・ 輸入食品を取り扱う小売店を併設して欲しい。 ・ 国際会議や芸術文化を楽しめる 200 人規模のホール・会議室が欲しい。 ・ 国立公園のビジターセンターとして機能する施設が欲しい。 ・ 白馬駅前の観光案内拠点となって欲しい。
(ウ) 建設場所に関する意見	・ 駅前を通る小中高生が多いため、駅の近くに建設して欲しい。 ・ 多くの方が用事のついでに寄れるよう、役場や銀行、お店が集積するエリアが良い。
(エ) 図書館機能に関する意見	・ 蔵書数を増やして欲しい。 ・ マンガコーナーを充実して欲しい。 ・ 白馬の歴史を知りたがっている外国人が多いので、地域資料を展示して欲しい。 ・ 英語の本をもっと増やして欲しい。 ・ オーディオブックや電子ブックなどを導入して欲しい。

(オ) その他の意見	・ 英語の案内も備えて欲しい。 ・ 施設へ行くためのコミュニティバスを運行して欲しい。 ・ 世界の国立公園とのネットワークを強化する拠点になって欲しい。 ・ 成田空港から白馬駅の直通電車を走らせられないだろうか。
------------	---

主な意見の傾向は次のとおりです。現状に対しての主な意見として「居場所がない」というものが多くありました。

また、「医療機関が少ない」という不安の声では、特に小児科や産婦人科などを希望する意見もありました。「白馬村の特徴を活かした活動をする施設が少ない」との意見もあり、それらを解決するものとして、新たな図書館等複合施設に期待していることが分かります。

【図表7 住民ヒアリングでの主な意見の傾向】



(3) 住民ワークショップの実施結果

新たな図書館等複合施設について、多様な住民からの意見を収集することを目的として、3回にわたるワークショップを開催しました。参加者を公募したところ、地域に長く住んでいる人や最近移住して来た人なども含め、高校生から60代までの幅広い年代の参加者25人（平均年齢34歳）にご応募いただきました。

ワークショップで議論された意見の中で、特に取り上げられた機能に焦点を当てて整理します。

主に、①「交流の場」としての機能、②教育・生涯学習としての機能、③芸術・文化を活用した観光施設としての機能、④医療・健康に関する機能、の4つの機能に分けて整理します。

機能	内容
①「交流の場」としての機能	ワークショップにおいて、機能に関する多様なアイデアが出されましたが、その中でも「交流の場」を望む議論は、全てのグループで取り上げられたテーマでした。交流の対象は、国内外からの移住者や観光客も含めて、幅広く期待する声もありました。
②教育・生涯学習としての機能	海外からの移住者との交流について、言語の壁によるコミュニケーション不足を心配する声が多く聞かれました。また、中高生の拠り所となる場が少ないという意見が多く、それを解消できる空間も期待されていました。日本語を得意としない生徒がいるという状況や住民の外国語学習ニーズを理解し、図書館における語学教育などのサービスを行うことを検討すること、中高生が訪れる場所としても定着するよう、学習にも繋がる企画や学生司書などの仕掛けも検討すること、そして、白馬村の歴史や自然について知りたいという観光客も多いという意見があったことから、白馬村が持つ山岳の大自然や生態系の研究を目的とする山岳研究所としての機能を検討することなどが挙げられました。
③芸術・文化を活用した観光施設としての機能	音楽や美術など、芸術に触れる空間を設けることで、村民の暮らしの質を高めるだけでなく、国内外からの観光客がアウトドアだけではない白馬村の魅力を楽しむ機会を創出することが期待されました。洋書についても、市販の書籍だけを置くのではなく、白馬村の地域に関連するような地域特有の洋書を揃えることで、白馬村に滞在する国外からの人々

	や移住者が、白馬村の理解を深めること、世界と白馬村の繋がりを深めることについての可能性を考えました。
④医療・健康に関する機能	医療的な機能を期待する声も多く、新たな複合施設では、住民の健康管理に寄り添える機能や資料の収集が期待されました。医療機能の設置場所としては、日常的に容易に利用できる視点で、駅の中や駅そのものが、新たな図書館等複合施設であって欲しいという要望もありました。

（４）白馬村図書館施設検討委員会の結果

白馬村教育委員会では、図書館の充実を希望する村民からの要望に応えるために、新しい図書館建設を検討することとしました。検討を具体的に進めるため、平成 29 年 7 月に「白馬村図書館施設検討委員会」を設け、新しい図書館のあり方や施設整備について検討を進めました。

図書館施設検討委員会では、「村民が望む図書館像とは何か」ということから検討をはじめ、それを探るために、ワークショップの開催やアンケートの実施により、できる限りの村民の意見を集め、それを基に「白馬らしさが感じられる図書館」について議論を重ね、平成 30 年 10 月に「新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書」をまとめました。

報告書の概要としては、主に、「誰でも利用しやすい図書館」、「白馬らしさが感じられる図書館」であることと、飲食等が可能で、柔軟な空間の使い方ができることや持続可能性を高める運営を検討すること等が挙げられています。

図書館のコンセプトとしては、白馬村の観光のメインとなる「山岳」から検討し、図書館が村民一人ひとりの道標となるようにという願いから、「ケルン」（独語で「道標」の意味）をコンセプトにしてはどうかという意見になりました。

その他、図書館サービスや施設規模についても検討し、それらを基に具体的な構想を策定しています。子連れでも気軽に利用できるよう、一時預かり等の機能を検討すること、子どもと一緒に、または高齢者にも利用しやすいカフェを検討すること、日常的に使用しないスペースの一般への開放を検討すること、開架図書のスペースで閉架図書のリストも閲覧できるように工夫すること、「静かにする場所」というイメージを払拭し、「音」、「飲食」、「遊び」等との共存に配慮することなどについても、検討していくべきとしています。

建設候補地についても、検討委員会としては、自然に囲まれて白馬三山が展望できることや利用しやすい場所であること、遠方の人も訪れやすいこと、近接した土地に余裕があることなどを条件に挙げ、現白馬村子育て支援ルームの敷地（地番：白馬村大字北城 6938

番地ほか)を候補としました。この結果を踏まえて、基本計画策定にあたっては、検討委員会で出た候補地も含めた4候補地で比較検討を行いました。(第3章参考)

(5) 庁内検討の実施結果

白馬村では、今後の人口動態や財政状況を踏まえ、総合的かつ長期的な観点から施設の有効活用や適正配置、適切な維持管理等、公共施設のあり方及びマネジメントに関する基本方針を定めることを目的として、平成29年3月に「白馬村公共施設等総合管理計画」を策定しました。

公共施設等の将来的な更新にかかる財源が不足することは明らかであり、各公共施設について、耐震化・長寿命化や統合・廃止に加えて、多機能集約化(1つの公共施設に複数の機能を盛り込み、スペース効率の改善と機能間の連携性を高める取り組み)を進めていくことを方針としています。

庁内では、新たな図書館等複合施設の建設にあたり、図書館施設検討委員会やワークショップ等の意見を踏まえ、「白馬村公共施設等総合管理計画」に基づく既存の各公共施設の耐用年数・老朽度や基本的方針、図書館との親和性、新たな図書館等複合施設を活用して推進すべき村の施策等について、庁内会議で総合的に検討しました。

また、子育て支援ルームは既に耐用年数を超過しているため、利用状況や住民ニーズを鑑みて、子育て支援の拠点として社会教育施設等との複合化を含め、早急に今後のあり方を検討していく必要があるとしています。そのため、新たな図書館は、子育て支援施設との複合化が望ましいという方針を示しました。

(6) 有識者会議の実施結果

アンケート、ヒアリング、ワークショップ、図書館施設検討委員会では、主に白馬村の住民を対象として意見を収集してきましたが、専門的な視点からの意見を得るために、「白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議」を設置し、9名の委員による議論を重ねました。

各回の概要は、次のとおりです。

■有識者会議開催概要

回	開催日	内 容
第 1 回	平成 30 年 8 月 30 日	白馬村の概要と白馬村図書館の現状及び検討経過、基本構想策定に向けた今後の進め方等
概要	白馬村の概要と、白馬村図書館の現状及びこれまでの検討経過を共有した上で、基本構想策定に向けた取組みについて議論しました。	
第 2 回	平成 30 年 10 月 25 日	同規模自治体の事例、複合化する公共施設の候補、複合化に併せて魅力を高める機能・施設について
概要	同規模の自治体の図書館等複合施設の事例を共有した上で、複合化するにあたって導入を検討すべき機能や施設について議論しました。	
第 3 回	平成 31 年 1 月 17 日	複合化に併せて交流を生み魅力を高める機能・施設について
概要	ワークショップのまとめを共有し、村民のニーズも踏まえた上で、第 2 回に引き続き、導入を検討すべき機能や施設について議論しました。	
第 4 回	平成 31 年 2 月 13 日	子ども・子育て支援施設整備と複合施設の検討 これまでの議論のまとめ
概要	第 1 回～3 回で出された意見を集約しつつ、基本構想に示す方向性としての複合化に伴う機能等について、有識者会議としての意見を整理しました。	

全 4 回の有識者会議において、様々な意見が出された中でも、村内外、国内外から訪れた人々が集い、出会うことのできる「交流型」の施設とすること、そして、そこでアートや音楽に触れたり、中高生などの若者も居場所として過ごしたり、白馬村の情報を充実させることで、長く過ごせる「滞在型」の施設とすることの重要性が議論されました。

有識者会議での議論を踏まえて、白馬村では、「交流」と「滞在」を重視した新たな図書館等複合施設の実現のために、図書館としての機能の充実、白馬村らしさを活かした施設のあり方、附帯する機能の検討などを、基本計画策定に向けても検討を重ねました。

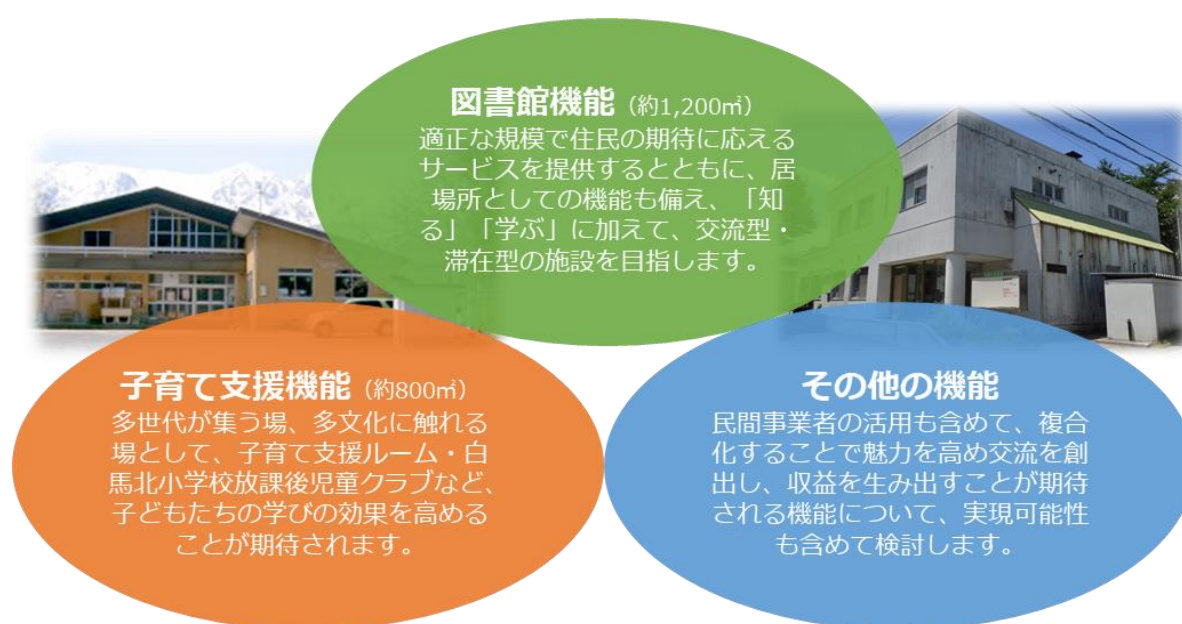
2. 基本構想概要

各種意見収集及び庁内検討、有識者会議等を踏まえて、白馬村では、以下のように基本構想を策定しました。

（１）基本的な方針

現在の図書館施設では、面積的に拡張することが難しく、閲覧席や蔵書の慢性的な不足など、図書館としての基本的な機能及び多様なサービスが十分に提供できていません。新たな交流拠点となる施設が住民から求められることも鑑み、多くの人が集うことで相乗効果が得られるような複合施設として、現在とは別の場所に新設することを目指します。

【図表８ 基本構想における基本的な方針】



（「白馬村図書館等複合施設基本構想概要版」より）

村の基本理念である「多様であることから交流し学びあい成長する村」の実現に向けて、多様な人々に配慮した施設とし、白馬村の歴史や文化を学ぶ場を提供するとともに、多様な文化・言語・価値観に触れ、視野が広がる交流が生まれるよう、必要な機能を検討します。また、降雨・強風などの悪天候時に、多くの人たちが集い楽しめる場所となることも求められています。

建設場所については、複合施設としての機能を考慮し、白馬村役場～JR 白馬駅周辺が候補となりますが、今後機能と規模をさらに精査しながら候補地を選定していきます。

（２）新たな図書館等複合施設におけるコンセプト

これまでに出了れた、村内外・国内外問わず、多様な人々が集い、出会い、交流し、学ぶことのできる場所であって欲しいという思いや、図書館施設検討委員会でも「街中のケルン」というコンセプトを生み出したこと、そして、今を生きる私たちが、多様な文化と交流する居場所づくりをすることで、未来を担う子どもたちが豊かな白馬村を創造することのできる拠点として、集い続け、愛され続ける施設となって欲しいという願いを込めて、新たな図書館等複合施設のコンセプトを以下の通り決めました。

「多様な創造性と出会い、豊かな未来へ誘う道しるべ」



多様な出会いから多様な創造が生まれ、それが白馬村の自然や文化を継承しながらも発展していくケルン（＝道しるべ）となることを目指します。

（３）新たな図書館等複合施設における機能

基本構想の中では、次のように２つの柱、８つのサービス、５つの機能連携について方向性を示しています。

① ２つの柱

- | | |
|----|------------------------|
| i | 音楽やアートによる交流の視点での「交流型」 |
| ii | 中高生の居場所や活動拠点の視点での「滞在型」 |

② 8つのサービス

i	「地域の仕事を知る」事業展開
ii	多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービス
iii	子育て支援としての図書館（子ども図書室）
iv	ネットワークシステムの活用
v	地域住民が世代を超えて学ぶ場
vi	地域資料の保管・活用
vii	人材育成と起業支援
viii	情報基地（知の拠点）としての役割

③ 5つの機能連携

i	子育て支援施設機能
ii	健康・医療機能 ・健康相談等 ・他の行政サービスとの連携 ・医療健康情報サービス
iii	交流を生み魅力を高めるための機能 ・アートスペース ・マンガ図書館
iv	交通アクセス機能
v	環境への配慮についての機能

（４）スケジュール案

2023年度の開館を目指して、以下のスケジュールで検討を進める予定を立てました。

■基本構想における想定スケジュール案

内容 \ 年度	平成 30	平成 31 /令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5
基本構想策定 アンケート・ワークショップ 既存公共施設複合化検討 有識者会議 機能検討						
基本計画策定 施設規模と機能配置 各機能の運営検討 建設場所の特定 官民連携に関する検討						
用地交渉・用地取得						
施設長（館長）の採用						
機能ごとの運営詳細検討						
設計						
着工						
開館						

第3章 基本計画策定に向けた検討

平成30年度の基本構想を踏まえて、令和元年度として、より具体的な基本計画を策定するために、各種調査を行いました。各種調査結果を踏まえて、候補地の比較検討を行い、本事業に最も適した候補地の選定及び施設機能・施設規模の具体的な検討を行いました。

1. 基本計画策定に向けた調査内容

基本計画策定に向けた調査としては、主に（1）機能方向性を踏まえたニーズ調査、（2）専門的な視点による候補地比較調査、（3）現図書館の課題を踏まえた方針設定のための調査、を実施しました。

（1）機能の方向性を踏まえたニーズ調査

機能の方向性を踏まえたニーズ調査としては、基本構想でまとめた「2つの柱」の視点を重視しながら、「8つのサービス」と「5つの機能連携」に繋げていくことを想定して、図書館関係者、子育て世代、子育て支援関係者、有識者（図書館・ホール・マンガ・アート・子育て等）にヒアリング調査を実施しました。

各対象へのヒアリング結果を踏まえて、意見の傾向としては次のようになりました。

① 8つのサービスについて

i 「地域の仕事を知る」事業展開

対象	意見
図書館関係者	・外国人の観光客や長期滞在者が、地域の仕事や産業などを知りたくて訪れることがあるため、そのような資料があると良い。
子育て世代	・宿泊業を営む子育て世代も多いため、料理についての本はニーズが高いと思う。

対象	意見
子育て支援関係者	・ 地域の子育て世代が、子育てに関する情報や支援内容を知ることができる場所、親同士のコミュニケーションが可能になる場所をつくることが大事である。
有識者	・ 白馬村のポテンシャルを確認し、夏のシーズンに焦点を当てた方が良いため、名物を探し、話題をつくり、ブランディングもしっかり考えることが大事である。

図書館関係者からは、図書館に訪れる人たちの傾向を踏まえて、村内はもちろんのこと、村外から訪れて中長期で滞在したい人たちのために地域の仕事を知ることができる情報があれば良いのではないかという意見が出ました。

子育て世代の方々からは、子育てしながらできる仕事として、家業またはお手伝いとしての宿泊業関係者も多いため、「地域の仕事を知る」というよりも、村外からの来訪者たちのために地域を知ってもらうことができる工夫をしたいということで、図書館にそのような情報収集の場としての役割を期待する傾向にありました。また、来訪者へのおもてなしのために、地域の食材を使った料理や来訪者に合った文化の料理などを知りたいというニーズも多いだろうという意見が出ました。

子育て支援関係者からも、「地域の仕事」とは異なるかもしれないが、「地域の子育て」を知る場として、コミュニケーションが取れる場所があると良いとの意見が出ました。

有識者からは、白馬村の持つ今のイメージ（山岳、スキー、スポーツ等）が冬のシーズンに偏っていることと、そして、そのイメージが強いがために、実はまだまだある白馬村の価値が見えにくくなっているのではないかとこのことを指摘した上で、夏のシーズンに焦点を当てることや村内の仕事にも目を向けて、白馬村の文化や隠れた魅力を丁寧に浮き彫りにしていくことにも可能性があるのではないかとこの意見がありました。

ii 多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービス

対象	意見
図書館関係者	・ 雑誌のリクエストはあるものの、10年ほど前から予算の削減があったため購入していないのが現状であり、そこから回復をしていないが、利用者から雑誌について聞かれることはある。 ・ 外国人がよく訪れるため、多言語の新聞や雑誌があれば、外国人も楽しめる図書館になると思う。

対象	意見
	・ 現在新聞は3種類扱っており、書籍に関しては利用者からのリクエストを踏まえて選書しているものの、選書ルールが確立されていない状態である。
子育て世代	・ 外国人のためだけではなく、子どもたちが外国語に触れるという意味でも充実していると良い。
子育て支援関係者	・ 白馬村には外国人の移住者もいることから、保育園等でも両親または片親が外国人の子どもも多いため、多言語が学べるような環境があると良い。
有識者	・ 国立国会図書館や民間の電子図書館サービスの導入により、資料提供を行うことも視野に入れると良い。 ・ 新聞や雑誌の購入は、リクエストは意見とし、選書委員会などで検討をして購入するのが良い。

多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービスとしては、図書館関係者や子育て支援関係者からは、白馬村を訪れる外国人や白馬村に移住した外国人、そしてその子どもたちにとっても充実させるために必要だという意見が多く出ました。

子育て世代の方々からは、外国人のためだけではなく、外国人が多く訪れる場所だからこそ、白馬村で生まれ育った子どもたちにも外国語に触れる機会を多くする必要があるという意味で求める意見がありました。

有識者からは、このようなニーズもある中で、既存サービスの活用や選書委員会の設置等をしたら良いのではないかという意見が出ました。

iii 子育て支援としての図書館（子ども図書室）

対象	意見
図書館関係者	・ 子どもたちは、学校が終わってから習い事までの間に図書館を利用して、宿題などを行っている時間を過ごしていることがほとんどであり、学校や習い事や家に捉われない唯一の息抜きの時間になっているように見受けられるため、そのような居場所としてもあり続けられると良い。 ・ 現状が狭いため、音についての意見は多く、静かにしたい人と子連れの人とが共存できるようなデザインを考えて欲しい。

対象	意見
	・ もっと児童サービスをしてあげたいという思いはあるが、現状では狭くてできないため、できるようにしたい。
子育て世代	・ 外国人や観光客が図書館に来られるようにし、子どもたちもたくさんの人たちを感じて暮らせるような図書館になって欲しい。 ・ 小さな子どもたちも、小学生に干渉されないスペースで、絵本を楽しむことや本を貸し借りする習慣をつけて欲しい。 ・ 子育て支援は幼児だけに寄っている気がしており、小中高まで続いていく子育て支援がないため、成長過程に応じて、子どもたちの興味が湧くような情報やしっかりした原画などの資料もあって欲しい。
子育て支援関係者	・ 大人が図書館に行く時に子どもも一緒に行って楽しめる図書館という観点と、子どもに付き合っ一緒にいっても大人も楽しめる図書館という観点の両方があると良い。
有識者	・ 育児や教育に関する資料などは、絵本コーナーや児童書コーナーの近くとする配架を行うことも検討すると良い。

子育て支援の視点からすると、現状小学生たちのたまり場になっており、読書のためというよりは、放課後の居場所のためであることを踏まえて、図書館関係者としては、新しい図書館になっても、子どもたちの居場所としては機能していきたいという意見でした。

子育て世代の視点としても、居場所としている図書館が、外国人や観光客、地域の大人たちと触れ合い、交流する場にもなって欲しいという意見がありましたが、一方で、現在、狭い図書館に小学生がたくさんいるために、小学生未満の乳幼児たちが絵本を楽しむ場所になっていないことから、新しい図書館ではそのようなスペースも欲しいという意見がありました。また、「子育て支援」が小さい子どもだけで終わるのではなく、小中高生という成長の過程でも続いていくと良いという意見がありました。

そして、子育て支援関係者からは、子どもたちの環境をつくるのはもちろんのこと、その子どもたちを気持ちよく連れていけるよう、その保護者がその空間を楽しめる工夫が必要という意見がありました。

有識者からは、親子共に過ごしやすい工夫として、例えば育児や教育に関する資料が絵本コーナーのそばにあるという配置が、子育て支援の視点では有効なのではないかという意見でした。

iv ネットワークシステムの活用

対象	意見
図書館関係者	・ 学校図書館と連携したサービス展開を考えていきたいと思っている。
子育て世代	・ 学校図書室と図書館が連携しているのは良いと思う。
子育て支援関係者	・ 白馬村内の子育て支援に関する情報が繋がると良い。
有識者	・ 公共図書館と学校図書館で統一された図書館システムネットワークを構築すると良い。 ・ 図書館だけではなく、多くの人が集まるホテルやバスターミナルなどとネットワーク化することにより、24 時間貸出サービスなどの分館的機能を行うことなども検討できると良い。

ネットワークシステムの活用については、図書館関係者や子育て世代、有識者の方から、学校の図書機能等、他の図書館機能との連携があると便利で良いという意見が出ました。

子育て支援関係者や有識者からは、図書館のネットワークシステムが子育て支援に関する情報が繋がると良いということでした。

また、有識者からは、図書館機能だけではなく、白馬村の観光等に関わる機能とも連携できるシステムができるとより白馬村らしい図書館になるのではないかなという意見が出ました。

v 地域住民が世代を超えて学ぶ場

対象	意見
図書館関係者	・ 高齢者になるとデジタル化した本のページを上手にめくれないという利用者も多いため、何か対応出来た方が良いと思う。 ・ 仕事をしたくて来る人も多いが、電源や Wi-Fi がないことで残念がって帰る人も多いため、少し仕事ができるスペースもあれば良いと思う。 ・ 昔は読み聞かせなどを行う登録ボランティアがいたが、今は図書館への登録ボランティアはいないため、またできると良い。
子育て世代	・ 今の図書館では専門書の量としても、空間としても調べものがないため、もっと専門書が増えて、空間としても明るく落ち着いた場所になって、親も調べものできて、子どもたちも楽しめるような図書館になって欲しい。

対象	意見
	・レファレンスサービスが充実することや読み聞かせのボランティア活動などが活発になることで、地域活動の垣根がない図書館が欲しい。 ・今の図書館は、図書館というよりも子どもたちの待ち合わせのスペースという印象が強いが、勉強するスペース、調べものをするスペース、子どもたちが賑わうスペース、待ち合わせをするスペースというのはきちんと分けて応える図書館であって欲しい。 ・ただのホール、図書館というよりも、生活目線でも理由があって、観光目線でもメリットがあって、というように、方向も変えて説得できると良いと思う。
子育て支援関係者	・今は核家族も増えつつあり、昔のように何世帯もが一緒に暮らす大きな家も減っているため、子どもを遊ばせるときも近所に迷惑をかけないようにと、音を立てない遊びや騒がない遊びが主流になっていることから、他の世代と様々な遊びができる環境があって欲しいと思う。
有識者	・多世代による白馬村の地図づくりや古地図による村歩きを行い、地域の成り立ちを学ぶイベントを開催することで多世代と交流し学び合うことができる。 ・アートや音楽など世代を超えて参加できるイベントやワークショップを開催すると良い。 ・個人席を設けるだけでなく、グループ席などを設け、多世代が同時に調べ物や学習ができるようにすると良い。

図書館関係者や子育て支援関係者からは、小さい子どもと大人と一緒に過ごせる空間ができることや、最新技術ばかりではなく、高齢者にでも使いやすいシステムを選択することなど、多世代が集まりやすく利用しやすいことを重視した意見が出ました。

子育て世代の方からは、多様なニーズに合ったスペースを設けることや村民の生活としても、外からの観光客としても、共にメリットを感じられると良いという意見が出ました。

有識者からは、基本構想でもあげたアートや音楽を通じて交流できる仕掛けや、図書館を起点にまちを知るような仕掛けができると、図書館をきっかけとした新たな出会いや交流の機会に繋がるのではないかという意見が出ました。

vi 地域資料の保管・活用

対象	意見
図書館関係者	・レファレンスについては、白馬のことを知りたいという人の場合が多いため、白馬にちなんだ山岳や自然に関する本などは、もっと増えて良いと思う。 ・寄贈したくて本を持ってくる人もいるが、なかなか扱いにくい本もあることと、置くスペースがなくて受け取らないことも多い現状である。
子育て世代	・移住者も多い上、白馬出身の人でも何があるのかも知らない人も多いので、ちゃんと分かるようにしなければいけない。
子育て支援関係者	・昔ながらの遊び方について色々知ることができる資料もあるのではないか。
有識者	・山岳のことやオリンピック、スキーに関する貴重な資料が、八方地区の「白馬・山とスキーの総合資料館」にすでにあるため、あのような資料をもっと分かりやすく気軽に見ることができるような場があった方が良い。 ・白馬村内で発行されているフリーペーパーや観光案内などの資料について、収集やアーカイブをするようにして、まとめて閲覧できるようにすると良い。

全体的に、もっと白馬村のことを知ることができるような資料を増やし、分かりやすく配架や展示をした方が良いという意見が出ました。特に、白馬村を訪れる村外の人たちは、観光客・移住者のどちらであっても、もっと白馬村のことを知りたいと思っているということ、そして、白馬村で生まれ育っていても、地域のこと知らないことも多く、観光客に聞かれても分からないことから、村内外問わず、関心を持って読みやすいような白馬村の歴史文化についての資料が必要ではないかということでした。

また、有識者からは、すでに八方地区の「白馬・山とスキーの総合資料館」にある山岳やオリンピック、スキーに関する資料は、貴重であるにも関わらず、資料館自体が行きにくいところにあり、今の展示状態では勿体ないのではないかということも踏まえて、新たな図書館へと展示機能を移すことも視野に入れると良いのではないかという意見がありました。

vii 人材育成と起業支援

対象	意見
図書館関係者	・ 現状 2 人＋臨時職員 1 人体制で運営しているが、新しくなって広くなる場合はスタッフが必要となるため、そういう面でも早い段階で育成が必要かと思う。 ・ 1 ヶ月以上滞在している又は働いている人は、日本人でも外国人でも図書館カードを作ることができる。外国人の場合は、パスポートか滞在証明書を見せてもらうことで作成をしている。そういった情報を白馬で働きたいという外国人にも発信できれば良い。
子育て世代	・ ものづくりや料理を教えてみたいというチャレンジができるような、レンタルスペースがあると良いと思う。公民館などでも似たようなことができるが、高齢者向けになってしまっているため、行きにくい。 ・ 観光がなかったら成り立たない村で、外国人がどんどん増えていくだろうから、地元民と移住者、外国人との折り合いがつく場所をつくっていかねばならないと思うし、そういう発想で人材育成や新たな企画を生み出さないといけないと思う。
子育て支援関係者	・ 子育て支援に関わる人たちも育成していかなければならないため、新たな施設をきっかけに、そういった事に関わった働き方をしたいという若者が増えたら嬉しい。
有識者	・ 法律や起業支援の専門家に定期的に図書館内に滞在してもらうことで、支援を行うことも可能ではないか。 ・ 白馬村内にある企業に、調理やサービスなどの研修を行ってもらう企画を考えると良い。 ・ 得意分野を持つ住民に講師となってもらい、講座を行うと良い。

図書館関係者からは、理想の図書館を運営していくためにも、今から図書館であらゆるニーズに対応する人材を育成していく必要性について意見があり、子育て支援関係者からも、同様に子育て支援に関わる人たちの育成の必要性について意見がありました。新しい図書館等複合施設ができることで、そういった場所で働きたいという新たな人材が現れることへの期待もありました。

子育て世代の方からは、チャレンジショップのような機能があることで、村民のモチベーションやスキルアップ、起業などにも繋がるのではないかとということと、村民と外国人

が共存できる場所づくりが必要になるのではないかという意見が出ました。

また、有識者からは、専門家や企業等との連携を活かした研修やセミナーを開催すると良いのではないかという意見が出ました。

viii情報基地（知の拠点）としての役割

対象	意見
図書館関係者	・多世代かつ村内外の人たちに欲しい情報が提供できるような場所が必要だと思う。
子育て世代	・何か本を読みたいという時に、何を読んだら良いのかおすすめてくれる情報提供があると良い。 ・情報が集約されていないから、情報が欲しいし、本が少なくても、情報としては充実して欲しい。
子育て支援関係者	・やはり、子育てに関する情報の集まる場所であって欲しい。
有識者	・拠点から白馬村のまち全域にどう展開させられるかということを考え、新たな施設だけで完結させない考え方での検討も大事。

情報基地としての役割については、全体的に、子育ても含め、村内外のあらゆる人たちが求める情報が集まる拠点として機能することを求める意見が多くありました。そして、特に有識者から、新たな図書館等複合施設が知の拠点の役割を担うことによって、どのようなまちづくりができるかという考え方が大事だという意見がありました。

②5つの機能連携

i 子育て支援施設機能

対象	意見
図書館関係者	・子どもを連れて来ても大人がゆったり調べものをすることや読書活動ができる環境を整備してあると良い。
子育て世代	・予算をかけてつくるならば、図書館と子育てが一緒になるのは賛成で、親が調べものをしながら放っておいても、遊具や賑やかに過ごして良いコーナーがあることで、子どもたちも遊ぶことができ、カフェでおやつも食べられるような場所ができると良い。 ・エスカルプラザにある室内遊戯場は、大きくはないけれど子どもたち

対象	意見
	は楽しむことができるため、あのような場が施設にあると良いと思う。 ・ 支援ルームもあるものの、年齢によって何曜日が何歳の日と決まっていることや時間帯が決まっていることもあること、雨が降った時に傘をさして子どもを連れて行くのが大変なこと、面白いものが何もないことなどが残念である。 ・ 白馬は観光にお金をかけてきているため、これから子どもを産む人たちは子育て制度の充実さで大町に移住してしまうから、施策が弱いと思うし、公園が欲しい。 ・ ハード面は普通で良いと思うため、もっとソフト面を長い目で見て考えた図書館であって欲しいと思っており、幼児から高齢者まで、中高生のための企画なども含めて、みんなにとって充実する場所であって欲しい。 ・ 防音スタジオを設け、子どもたちが楽器を鳴らせるような場所、大きすぎない小ホールが欲しい。
子育て支援関係者	・ 屋内遊戯の場も必要だと思うけれど、昔のように自然の中で遊びを見つけることや自然と触れ合いながら遊ぶという体験が少ないため、遊び方を探すことや生み出すような能力が育たなくなっていることが心配。 ・ 白馬村は雪が多いため、雪のシーズンを乗り越えて遊具を維持するためには、費用や労力が必要になってしまうが、その影響もあってか、年々少しずつ外で遊べる遊具が減って行っていることが、子どもたちにとっても、保護者にとっても残念なのではないか。
有識者	・ 「木育」なども考えるならば、500～600 m²必要である。 ・ 経営を地域が担うことを検討しながら、地元の NPO などの利益を検討し、運営として自立した場の検討もした方が良い。

子育て支援機能を持つことについては、図書館関係者や子育て世代の方からは、子どもが飽きずに遊べる空間と大人がゆっくり読書を楽しめる空間が一緒にできることで、親子での時間が過ごしやすくなり、若い世代も行きやすい場所になるのではないかと期待の声がありました。そして、特に子育て世代の視点として、幼少期のみではなく、中高生や大人になっても、生涯学習の域に至るまで、様々な学びや活動ができる場所になって欲

しいという意見がありました。

複合施設の検討をしているため、主に屋内遊戯機能の話が多くありましたが、子育て支援の専門的な視点からは、屋外での遊びが昔より減っているとの指摘があり、屋内ももちろん大事ですが、屋外活動も視野に入れた子育て支援の仕掛けができれば良いという意見もありました。

有識者からは、地域で運営するような仕組みの子育て支援機能が構築できると、運営として自立した場ができて良いのではないかという意見でした。

ii 健康・医療機能

対象	意見
図書館関係者	・ 病気や健康づくり、スポーツなどについても様々な調べられるような情報を図書館が持っていたい。
子育て世代	・ 他所では図書館、クリニック、子育て支援という場所もあるが、狭い村内でも該当する機能はいくつかあるため、例えば図書館にクリニックがある場合、特に高齢者には便利かもしれないが、必ずしも図書館にある必要はないと思う。 ・ 耳鼻科・眼科・皮膚科などの専門科が、週1で良いので来て欲しいと思う。 ・ 図書館としては、医療というよりも、リラクゼーションがあったら嬉しいと思う。
子育て支援関係者	・ 今は親も共働きで忙しく、中々お昼寝の時間や食事の時間を規則正しく取らせられない家庭が増えているが、小さいうちの発育に関わることなので、正しい知識を得て、できるだけ望ましい生活をして欲しいと思う。
有識者	・ 白馬村近郊の医療機関とネットワークを構築することを検討する。 ・ 看護師の資格を持つ人や健康運動指導士に、定期的に滞在してもらい、相談や実際の運動方法などの講座を行うのはどうか。 ・ 医療関連の資料だけではなく、スポーツや音楽などの健康法などの資料収集を行うのはどうか。

健康や医療の機能については、図書館関係者や子育て支援関係者からは、幅広く調べることができ、正しい知識を得られる場として図書館機能が成り立つと良いという意見が出

ました。

また、子育て世代の方からは、必ずしも図書館の複合機能としてクリニック等が入る必要はないものの、今ある医療機能についての意見やリラクゼーション機能を求める意見がありました。

有識者からは、健康支援機能の一環として、他の視点でも挙げられているスポーツや音楽と関係させた取組みも有効ではないかという意見がありました。

iii 交流を生み魅力を高めるための機能

対象	意見
図書館関係者	・外国人からのリクエストは、開架にできていない部分もあること、コミュニケーションが取れずあまり対応できていないこと、Wi-Fiの利用を目的で訪れる外国人に対して入口にWi-Fiがないことを大きく貼っていることなどがあるため、外国人が多い割に全然開かれた図書館にできていないと思うから改善をしたい。 ・生活の中に図書館があるように、交流の場になるような「広場」であって欲しいと思っており、情報と人はもちろんだが、人と人が繋がることのできる広場になると良い。 ・色々な活動をしている人は発表できる場として、あるいはそうではなくてもゆるく繋がることのできる場として機能する、サードプレイスになるようにしたい。
子育て世代	・欲しいものはネットで買えるようになってしまったため、本当に欲しい本は自分で調べて買ってしまいうけれど、図書館に行くことで一つでも色々な本に触れられて、最終的には気に入った本を買えるような機能もあったら嬉しい。 ・以前、お金をかけずにアート体験をして自己完結できる場所があることを知り、そういう体験ができる場所が欲しい。 ・カルチャールームみたいなのがあることで、そこから本に繋がるような場所があると良いと思うため、工作やものづくり、ロボット製作などの体験から本へ繋がる、「つくる」から「本」へ移行していけるような場所があると良い。 ・子育て支援としてはもちろん充実していて欲しいけれど、外国人なども雨の日に行って過ごせるような場所ができた方が良い。

対象	意見
子育て支援関係者	・子どもを預けに来る親や施設に連れてきた親たちが、繋がって交流できる場があると良い。
有識者	・本屋が入ることができると、本屋にしかできないイベント展開も考えることができ、作家などが来場してくれる可能性も高くなる。 ・外国人は日本語が読めない可能性も高いが、絵であれば興味を示すため有効であり、日本のカルチャーマンガを売っていくという視点でマンガを置くことも有効である。 ・アーティストがワークショップなどをできることや、アーティストが作品制作のために泊ることができること、作品を展示したり保管したりできる機能があるとニーズがある。 ・「アート×〇〇」といった現代表現の場としての白馬村を検討した方が良い。

全体的に、外国人に開かれた場所になること、図書館をきっかけとした体験や交流が生まれる場所になること、アート・カルチャー・ものづくりなどの機会があること、村での生活のサードプレイスになっていくこと、同じような趣味や悩みを持つ人たちが繋がる場所になることなどの意見がありました。

ネットで本が買える世の中ですが、あえて本に触れて選ぶことや本を通じてのコミュニケーションが可能になることも魅力になるだろうという意見もありました。

iv 交通アクセス機能

対象	意見
図書館関係者	・小学生たちも今までのように行きやすい場所であると良い。
子育て世代	・別の自治体でも、好きに過ごして良いという子育て支援施設があるとそっちに行ってしまうが、ガソリン代がかかることでやめてしまうケースもあり、駅からのメインストリートに素敵な建物が点在してくれたらとても良いと思う。 ・本を借りる機能自体は遅くまでやっていなくても良いとは思うものの、宿泊業をしている家はなかなか送迎もできず、冬は自転車通学ができないため、徒歩と電車で通学している生徒もいる中、電車は1本遅れると1時間以上待つし、夜は飲酒している外国人なども多くて少し怖

対象	意見
	くも感じるという声もあるため、通っている中高生たちの電車待ちの時間に、図書館が機能していることは重要だと思う。 ・土日にも子どもが行ける場所があるというのは、子どもも嬉しいだろうし、親もストレスがなくて良いと思うが、車がないと生活できないため、施設をつくるだけではなくて、どうやってその場所に継続的に通えるかということも考えていかなければならない。 ・コミュニティバスも検討していかなければならないと感じており、冬に観光客向けのバスは出ていても、生活では使えない。
子育て支援関係者	・車で送り迎えしやすい場所、駐車場が確保できる場所が良い。
有識者	・どの場所になるとしても、車で来館が多いと考えられるため、駐車場の確保をしっかりとしなければならない。

図書館関係者からは、今、小学生たちの溜まり場になっていることもあり、場所が変わっても今までのように通える場所であり続けられるようにして欲しいという意見がありました。

子育て世代の方や子育て支援関係者、有識者からは、車で送迎しやすい場所であって欲しいという意見や駐車場の確保が重要という意見もありましたが、特に子育て世代の方から、小学生のみではなく、冬場送迎してもらえず、自転車通学も厳しく電車通学せざるを得ない中高生たちのためにも、本数の少ない電車を待つ間に利用できる場所にあると良いだろうという意見もありました。

▽ 環境への配慮についての機能

対象	意見
図書館関係者	・せっかくなので白馬の自然や白馬らしさを感じられる空間になると良い。
子育て世代	・コーヒーを飲みながら、きれいな景色の中で、料理の本や雑誌を読めると嬉しい。
子育て支援関係者	・積み木を重ねて崩す時の音がうるさいからという理由で、積み木では遊ばせないという家庭が増えている。室内外問わず、子どもたちが騒いだり音を立てたり、自由に遊べる環境を増やしてあげたいと思う。

対象	意見
有識者	・ 初心者などの山歩き体験や花、鳥などの環境と繋がる講座を設けるとや、アウトドア系企業によるアウトドア講座を設けると良い。 ・ 新施設を拠点に、オーガニック系マルシェなど、環境を意識したイベントの開催を考えていくこともできる。

環境への配慮の視点では、全体的には、白馬村の山岳を含む自然豊かな環境を守りながら活かすという意見が多くありました。その上で、子育て支援関係者からは、その自然を活かした環境での子どもたちの遊びの場が必要という意見がありました。

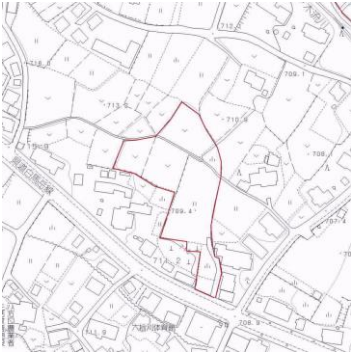
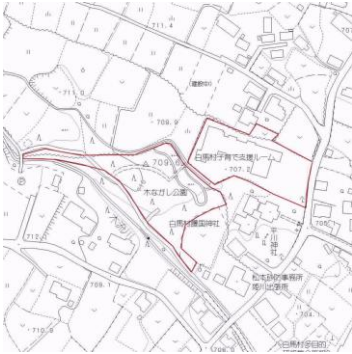
新たな図書館等複合施設を目指し検討していくサービスや連携させる機能については、全体的に共通する傾向として、次の点が挙げられます。

- ①外国人に開かれた場所になり、外国人及び外国の文化と触れ合う場所であること。
- ②小さな子どもから高齢者まで、幅広い世代が学び、交流できる場所であること。
- ③図書館をきっかけとし、様々なジャンルと触れ合える場所であること。
- ④地域住民でも観光客でも、あらゆる白馬村の情報が得られる場所であること。
- ⑤交通の面でも行きやすく、白馬村の自然環境を活かした場所であること。

これらを踏まえて、基本計画の内容を具体的に検討していくこととしました。

（２）専門的な視点による建設候補地比較調査

本事業の建設候補地としては、基本構想段階での検討委員会で出された意見・候補地を含め、次のＡ～Ｄの土地を候補地とし、検討しました。また、これらの候補地について、主に、①立地と利便性・周辺環境、②面積と形状、③用地手続きの難易度、④建設における課題、⑤官民連携に関する事業者の利点、⑥主要地からの距離、の６つの視点で比較検討しました。以下の内容については、各種機能に関する有識者等にもヒアリングを実施し、その意見も踏まえて検討した結果を整理しています。

候補地		A 候補地 (A コープ白馬店南)	B 候補地 (六十刈体育館北側圃場)	C 候補地 (白馬村子育て支援ルーム)	D 候補地 (JR 白馬駅前)
土地情報	視点				
		民地	民地	村有地	民地
①立地と利便性・周辺環境	住民目線	・役場、スーパー、銀行、スポーツ用品店などと隣接しており、生活をしながら他用と合わせて利用しやすく、多様な人が集まりやすい。 ・白馬北小学校から徒歩圏内で大きな道路を渡らずに行くことが可能であり、中高生も駅から近くアクセスしやすい。 ・山岳が綺麗に見える。 ・防災面でも、避難所等への活用も可能である。	・他用と合わせて利用するには、少し距離がある。 ・白馬北小学校から徒歩圏内であり、中高生も駅から近くアクセスしやすくはあるが、白馬北小学校の児童が利用するには、一番遠くなる。 ・駐車スペースは確保しやすい。 ・奥まった環境で非常時もすぐには集まりにくい。	・小学校、白馬高校からは近いが、白馬中学校からは一番遠くなる。また、白馬駅からも距離がある。 ・前面道路が狭い。 ・山岳が綺麗に見える。 ・防災面でも、避難所等への活用も可能である。	・小学校から徒歩圏内であるが、国道の横断が必要である。 ・電車通学の中高生にとっては、駅なので利用しやすい。 ・住民にとっては駐車スペースが確保できれば利用しやすい場所。 ・山岳が綺麗に見える。 ・駅と駅周辺機能との連携もしやすい。

候補地		A 候補地 (A コープ白馬店南)	B 候補地 (六十刈体育館北側圃場)	C 候補地 (白馬村子育て支援ルーム)	D 候補地 (JR 白馬駅前)
	観 光 目 線	・ 県道沿いで白馬駅やアウトドア店舗とも近く、駐車スペースも確保できるため、利便性が高い。 ・ 山岳が綺麗に見える環境である。	・ 出入口が狭く、県道沿いから施設が見えない。 ・ 山岳は綺麗に見える環境だが、駅周辺施設から距離があり寂しい。	・ 前面道路の幅員が狭く、駅から少し離れた奥まった場所があり、観光客利用も少ない。 ・ 主要道路から離れてアクセスし難く大型車両の進入が困難。 ・ 村有地のため、財政負担は減るが場所が分かりづらい。	・ 村の玄関口である駅であり、国道沿いで、商業施設等近くにあるため、観光客にとって使いやすい立地。 ・ 駅直結であるため、観光拠点としても、防災面でも活用しやすい。
②面積と形状		・ 形状自体は複雑ではなく整っているため一見良いが、面積自体は足りるとしても、他の施設との兼ね合いや駐車場の設け方など要調整。	・ 面積自体は足りるが、形状が複雑で設計が難しく、良くない。	・ 面積自体は足りるが、土地が分かれており、高低差もあるため、利用しづらい。	・ 駅施設やロータリー内の施設もあるため、駐車スペースなどを含める、面積はどこまでの線を引けるかによって変わる。
③用地手続きの 難易度		・ 民地のため、用地買収が必要。	・ 民地のため、用地買収が必要であり、近隣に村有地があるのに用地を買収するということがネックになる。	・ 村有地のため、用地購入手続きが不要。	・ JR 東日本（※1）との交渉になるため、その交渉次第で難易度が変わる。
④建設における 課題		・ 他施設との駐車場の共用など考える必要がある。	・ 形状に伴い設計等は複雑。	・ 村の土地なので建設はすぐにできる。	・ 駅舎部分の設計はできても、周りの土地をどう使えるか次第である。

候補地		A 候補地 (A コープ白馬店南)	B 候補地 (六十刈体育館北側圃場)	C 候補地 (白馬村子育て支援ルーム)	D 候補地 (JR 白馬駅前)
		・形状としては難しくないが、隣接商業施設からの景観を守る必要があり、あまり広く使えない。		・建設前に、現子育て支援ルームを解体する必要があるため、その間の子育て支援ルーム機能を他所に移す必要がある。	・JR 東日本との調整や駐車スペースの確保が難しい。 ・土地や設計等に向けて交渉が必要。
⑤官民連携に関する事業者の利点		・県道沿線で、他の商業店舗と隣接しているため、不可能でもないが、自主事業の展開が難しそうであり、面白みがない。 ・駅を室内、A 候補地を広場として連携させる一体整備なども視野に入れると良い。	・県道沿線ではあるが、土地が入り組んでいるため、県道沿いから認識されづらいこともあり、魅力的ではない。	・前面道路が狭く、大通りから離れていることもあり、魅力的ではない。	・駅の魅力によりあらゆる業種が自主事業の提案をしやすい。 ・ロータリーや無電柱化などとも抱き合わせて一体的に整備できると良い。 ・プロジェクトとしてインパクトがある。
⑥ 主 要 地 か ら の 距 離	国道からの距離	・300m (白馬駅前交差点)	・400m (白馬駅前交差点)	・300m (大出交差点)	・直接接続
	県道白馬岳線からの距離	・直接接続	・直接接続(※2)	・400m (六十刈交差点)	・直接接続
	白馬北小学校からの距離(※3)	・750m (塩の道利用の場合 450m)	・830m (塩の道利用の場合 500m)	・100m	・400m

候補地		A 候補地 (A コープ白馬店南)	B 候補地 (六十刈体育館北側圃場)	C 候補地 (白馬村子育て支援ルーム)	D 候補地 (JR 白馬駅前)
	白馬中学校 からの距離	・ 750m	・ 750m	・ 1,100m	・ 700m
	白馬高校か らの距離	・ 400m	・ 450m	・ 300m	・ 600m
	白馬駅から の距離	・ 400m	・ 450m	・ 800m	・ 直結
	総合評価 (主要地か らの距離)	・ 小中学校からは少し離れてしま うが、主要道路からのアクセ スは良く、白馬駅からも比較的 近い。	・ A 候補地と比較すると大きな 差はないものの、A 候補地より は全体的に離れる。	・ 小学校からは最も近くなる が、主要道路や白馬中学校、白 馬駅から離れる。	・ 各主要道路と白馬駅に直接接 続し、小学校も比較的近い。高 校だけ少し遠くなる。

※１ 正式には「東日本旅客鉄道株式会社」(本計画書内では「JR 東日本」とする)。

※２ 敷地入り口から建設候補地までは進入路が細く、建物は県道から直接見えなくなる可能性はある。

※３ 小学校では塩の道(C 地点前面村道)は通学路となっていないため、国道 148 号から県道白馬岳線を経由。

また、他計画との関連性としては、「白馬村第5次総合計画」、「白馬村総合戦略」、「白馬村子ども子育て支援事業計画」、「白馬村立地適正化計画」（策定中）等が関連するため、それらも考慮して検討しています。

上記の比較検討を整理するために、「◎＝5点、○＝3点、△＝1点」と配点し評価結果として整理しました。（×がある場合は、そもそも検討対象にならないと考え、◎○△としませんでした。）評価結果は、次のとおりです。

■各候補地の比較検討結果

視点	A 候補地	B 候補地	C 候補地	D 候補地
①立地と利便性・周辺環境	◎ 多機能が集まっており、立地も利便性も良い。	△ 奥まっているため利便性が良くない。	△ 他の拠点と距離があるため利便性が良くない。	◎ 立地も利便性も良く防災面でも活用しやすい。
②面積と形状	○ 形状は良いが面積は他との兼ね合いで要調整。	△ 面積はあるが形状が複雑。	△ 面積はあるが形状が複雑。	△ 面積も形状もどのように線を描くかによる。
③用地手続きの難易度	△ 民地のため、交渉と用地買収が必要。	△ 民地のため、交渉と用地買収が必要。	◎ 村有地のため、用地購入費や用地交渉が不要。	△ JR 東日本との交渉次第となる。
④建設における課題	△ 隣接する施設と要調整。	△ 形状に伴いゾーニングし難い。	△ 形状に伴いゾーニングし難い。	△ 駅舎や周辺施設と要調整。
⑤官民連携に関する事業者の利点	○ 官民連携は可能だとは思いますが面白みが少ない。	△ 魅力的ではない。	△ 魅力的ではない。	◎ 駅と一体で魅力的な事業を生み出せる。
⑥主要地からの距離	○ 小中学校とは少し離れるが主要道路から近い。	△ 全体的に A よりも距離がある。	△ 学校は近くなるが主要道路からは全て離れる。	○ 高校のみ離れるが主要道路や小中学校は近い。
①～⑥合計点	16	6	10	16

上記結果を踏まえて、合計点が同点であり最も高かった A 候補地及び D 候補地をさらに具体的に検討していくこととし、B 候補地と C 候補地は A 候補地及び D 候補地が検討した結果、整備不可能となった場合における再検討地とすることとしました。（本章 2（3）参照）

（3）現図書館の課題を踏まえた方針設定のための調査

新たな図書館等複合施設の検討にあたり、書架・家具・サイン・デザイン等における現状を調査し、整理しました。

ジャンル	現状課題	検討の方向性
書架	・資料の増加に対して書架の数が追いついていない。 ・使用している書架には、安定が悪く、地震の際に倒れることや資料が落下してしまうことが想定される状態の危険なものがある。 ・書架間の幅も狭く、地震の際に落ちた資料が、通路に散乱し避難経路を塞ぐなどの二次災害を引き起こす恐れがある。	○安全面を考慮した書架を適切な数配置する。 ○将来の蔵書増を見込んだ設計とする。
机・椅子	・狭く、机・椅子の数も少ない。 ・利用者がリラクセスできる椅子がない。 ・机が狭く、資料を広げて調べ学習などを行うことが困難。	○図書館としての機能を果たし、利用者が落ち着いて過ごせる机と椅子を設置する。
その他家具	・カウンターも狭く、作業するスペースが十分に確保できていない。	○図書館業務が円滑にできる家具を配置する。
サイン	・サイン自体も分かりにくく、多世代や外国人にも親切的サインが必要。	○国内外の利用者が使いやすいサインにする。
ユニバーサルデザイン	・現在の図書館は、入口や館内の書架間が狭く、ベビーカーや車椅子利用者には使いにくい。	○バリアフリーを充実させた整備にする。
IoT 及び ICT	・現図書館では対応できていない。	○新たなものも含め、システム導入を検討する。

これらの状況を踏まえた上で、4 章 2（1）において、これらの検討の方向性をまとめました。

2. 基本計画策定に向けた具体的な検討内容

これまでの調査経緯を経て、各対象者からの意見収集結果や分析等の結果を踏まえて、さらに有識者と土地の比較検討を行い、事業手法等の考え方についても検討しました。

（1）検討機能と候補地選定に伴う有識者ヒアリング及び有識者会議の実施

主に、昨年度の基本構想策定に向けた有識者会議に参加された有識者を対象としたヒアリング調査と、同じ構成での有識者会議を実施しました。まずは、個別に有識者から見た見解を整理し、その上で、有識者会議で議論をしています。有識者の意見を踏まえた候補地についての比較検討結果は、次のようになりました。

分野	候補地についての見解
図書館	・図書館をつくるという視点での立地評価としては、A または D 候補地が良い。 ・ B と C 候補地については、土地の形状が難しいと思われる。 ・ 利便性としては、住民目線で考えれば A 候補地であり、観光目線で考えれば D 候補地であるため、どちらを中心に考えるかによって異なるものだと思う。
マンガ	・ A 候補地であれば、図書館機能の中にマンガ図書館機能を入れるのが良いと考え、その場合は 25,000～40,000 冊必要である。 ・ D 候補地であれば、インフォメーションセンターとしての機能を検討し、マンガはピロティ空間を活かしてマンガコーナー程度にする方が良いと考え、5,000～8,000 冊必要である。 ・ B と C 候補地の場合、複合施設ではなく、村外からも人がたくさん訪れるようなマンガ専門の博物館をつくるなどを検討し、テーマパーク化しないと、中途半端になると考える。 ・ 図書館内のマンガということであれば、A 候補地は利便性等を考えても良い

分野	候補地についての見解
	とは思うが、村全体に波及する効果としては、D 候補地の方が魅力的であるため、白馬駅のピロティ内にマンガコーナーをつくるのが良いと考える。
アート	・ A 候補地については、公共施設としては悪くないと思うが、D 候補地であれば、アート関連の宿泊施設などを検討することやアートの拠点として機能させることも可能性があって面白いだろう。 ・ B 候補地と C 候補地については、専門機能ならば良いが、複合施設として集客施設をつくろうとする場合、A と D の候補地と比べると、立地の良さや環境としての魅力度が低い。
子育て支援	・ 白馬駅の敷地を考えるならば、駅を活用したおもちゃ美術館なども参考になるだろう。 ・ B と C の候補地については、子育て支援機能としても、アクセスや立地面であまり魅力的ではない。 ・ A 候補地の立地も悪くないが、D 候補地で駅や電車を活用することでできる子育て支援企画が広がり、魅力的である。
ホール	・ 駅にホールがあるということは、出かけていく確率が高くなる。 ・ 10 分歩く距離にホールがあるのは、車移動の地域住民にとっては大きな壁ではないかもしれないが、観光客など外から来る人達のことを考えると、集客の壁になる。 ・ ホール利用者や集客のターゲットを考えると、車で不便なところは検討してはいけない。 ・ 駐車場の整備の問題さえクリアするのであれば、圧倒的に立地が良いのは、D 候補地である。
地域	・ 駅は魅力的だが、観光客目線の利便性に寄ってしまうのではないか。 ・ 住民目線の利便性で考えた場合、A 候補地の方が、利便性が高いとも考えられる。 ・ 駅の場合、駐車場をどこに確保するのかという問題があるため、東側の活用が可能なかどうか、確認していく必要がある。

傾向としては、住民の利便性重視であれば A 候補地、観光客の利便性や交流・まちづくりの観点からすると D 候補地が魅力的だという見解が揃いました。また、B 及び C 候補地については、複合施設としては魅力が低く、利便性もあまり高くないという見解であった

ものの、何かの機能に特化した施設をつくる場合は、その立地を活かせる可能性もあるという見解となりました。

(2) 官民連携手法に関する調査

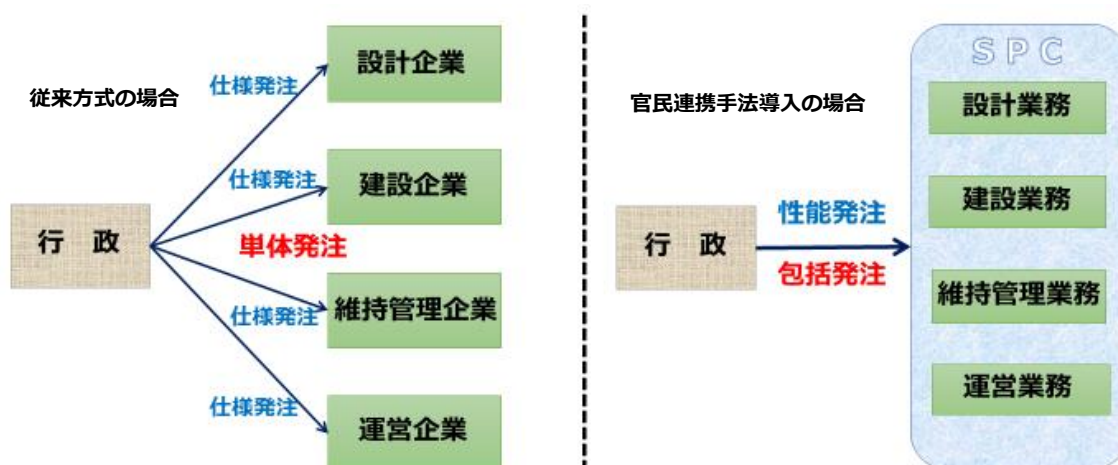
①官民連携手法とは

官民連携手法とは、従来、国や地方公共団体等が自ら行ってきた社会資本の整備や公共サービスの提供について、民間の資金やノウハウを活用して事業を行う手法のことです。官民連携の様々な手法の総称をPPP（Public Private Partnerships）といい、その中で、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成13年12月施行、平成27年9月改正)」(以下、「PFI法」という)で規定された手法をPFI（Private Finance Initiative）手法といいます。

従来方式との主な違いは、下の図のように、設計・建設・維持管理・運営をそれぞれ別に発注してきた従来に対して、1つの事業全体に関係するコンソーシアムを組んでもらい、そのコンソーシアムに包括発注するという仕組みであることです。

そうすることにより、維持管理及び運営を見据えた設計及び建設を行うなど、ソフト面を重視したハード整備ができることや、維持管理面を考慮した材質等の検討などがより具体的にできることによるコストの軽減、運営面を考慮した設計等による運営サービスの質の向上など、様々な効果が期待できます。

【図表9 従来手法と官民連携手法の場合の方式の違い】



P F I 手法には、公共施設等の所有権等の移転のタイミング等によって区別される「B T O (Build・Transfer・Operate = 建設・移転・運営)」、「B O T (Build・Operate・Transfer = 建設・運営・移転)」、「B O O (Build・Operate・Own = 建設・運営・所有)」という方式や、公共施設等の運営権が設定される「コンセッション」方式などがあり、これらの官民連携の事業手法は、地方自治法や P F I 法等に則った手法として国内で様々な事業で取り組まれています。

従来手法と比べて、官民連携手法を導入することによる期待できる点や懸念すべき点がどのようなものなのかを整理すると、次のようなことが挙げられます。

期待できる点	・ 包括発注による効果、民間の資金調達等の効果によって、財政負担の軽減に繋がる。 ・ 長期的な契約行為のため、施設の維持管理及び運営面において、効率的かつ適切なメンテナンスが実行される結果、L C C (Life Cycle Cost) の削減効果が期待できる。 ・ 民間事業者の市場分析により、社会変化に適切な対応がし易く、公共サービスへの満足度が高くなる可能性がある。 ・ 施設全体を民間事業者に任せることになるため、事業者は運営等業務に専念できることから、施設及びサービスの質の維持が期待できる。
懸念すべき点	・ 民間事業者にとって長期的に続けられる魅力的な事業となっているかどうかという点に留意することと、可能な限り地元事業者が活躍できる体制を構築できることが望ましい。 ・ 長期契約のため、債務負担行為の議決を得る必要があり、内部合意をしっかりと取っていくことが必要。

昨今では、従来の一定の型にはまった事業スキームだけでなく、地域特性や事業規模等に応じた事業スキームの設計や構築が行われているため、本事業に官民連携手法の導入を検討するにあたって、今後具体的に検討を進めていく中で、上記の期待できる点及び懸念すべき点についても十分検討した上で、白馬村に適した事業設定と事業スキームの構築をしていくことが重要です。

②職員勉強会の実施

今後、本格的に本事業に関する官民連携手法導入の検討をしていくために、①に挙げた基本的な情報も含めて、役場職員を対象とした官民連携手法に関する勉強会を実施しました。概要は次のとおりです。

開催日時	令和元年 8 月 7 日（水） 17：30～18：30		場所	白馬村役場 2 階会議室
参加人数	18 名	タイトル	「地域を元気にするこれからの官民連携事業」	
内容 （要点）	○官民連携手法の基礎知識について ○VFMの考え方について ○PFI手法の仕組みについて ○PFI手法を導入した全国の事例について ○官民連携手法を導入した場合のプロセスについて ○官民連携手法のメリット・デメリットについて . . . など			

この研修については、若手職員を中心に参加者が多かったことから、官民連携についての基本的な内容についての研修を行いました。担当している業務によって、官民連携について触れる機会のある職員は常に少ないため、それぞれの担当業務の中での活用の可能性や、図書館等複合施設の建設に向けてどのような手法を検討しているかを学ぶ機会となりました。

現在、図書館を核として検討しつつも、子育て支援の視点や高齢者福祉の視点、観光の視点、まちづくりの視点等も踏まえて検討を進めているため、今後も本事業の検討が進むにあたって、役場内の各課の職員との情報共有や連携を考えていく必要があると言えます。そのため、今後も積極的にこのような機会を設けて、勉強会や意見交換を行っていきます。

③駅と図書館等複合施設の官民連携事業先進事例調査

本事業の参考となる国内の先進事例を調査しました。先進事例の選択の視点としては、まず、官民連携手法の導入を検討するにあたって、本事業の核となる図書館機能を踏まえ、図書館及び図書館等複合施設の整備におけるPFI事業の事例を挙げています。その他、D候補地は駅舎でもあることから、駅機能との相乗効果の可能性も検討する必要があると考え、図書館機能の整備と駅機能の組み合わせの事例を挙げています。駅舎そのものの事例が少ないため、駅前再開発の事例も含めています。

今回参考事例として挙げているのは次の12事例です。以下、参考になるポイントをまとめています。なお、各事例の詳細については、参考資料として整理しています。

■本事業における図書館整備参考事例

視点	施設名	自治体	参考ポイント
図書館 ×PFI	大和市立中央 林間図書館	神奈川県 大和市	・商業施設と公共施設の合体による利便性向上の効果を生んでいる。 ・商業施設内に自然に溶け込む公共空間となっている。
	学びの杜のの いちカレード	石川県 野々市市	・音楽スタジオやオープンギャラリーなどの機能も配置されている複合施設として整備している。 ・市民にとって市民協働やあらゆる情報等のシンボルとなっている。
	安城市立図書 情報館	愛知県 安城市	・民間の力を活用しながら、図書館、商業施設、広場などへの集客力を発揮し、相乗効果を生んでいる。
	紫波町図書館	岩手県 紫波町	・地域に根差した情報や基幹産業に関する情報収集とイベント企画等が充実している。
図書館 ×駅舎	舟橋村立図書 館	富山県 舟橋村	・越中舟橋駅舎内に併設された図書館で、図書館と駅の双方の利用客を増やしている。
	立山町立立山 図書館	富山県 立山町	・五百石駅舎内に、図書館機能や交流センター機能、福祉的な機能が一体的に整備されている。
	浜松市立佐久 間図書館	静岡県 浜松市	・佐久間駅の待合室に併設された図書館で、観光案内所の性格も有している。
	いなべ市立大 安図書館	三重県 いなべ市	・大安駅に併設された図書館で、鉄道図書コーナーを設けて充実させているところが人気を高めている
図書館 ×駅前 再開発	あかし市民図 書館	兵庫県 明石市	・駅前再開発ビルに設置された図書館で、大型書店との相乗効果を生んでいる。
	周南市立徳山 駅前図書館	山口県 周南市	・徳山駅前の賑わい交流施設として図書館を核にした複合施設として整備している。 ・管理運営には民間が入っている。
	桶川市立中央 図書館	埼玉県 桶川市	・駅前の商業施設内にある図書館で、カフェやイベントスペース、大型書店と隣接することで一体型の運営を展開している。
	藤枝市立駅南 図書館	静岡県 藤枝市	・藤枝駅近くの複合施設内にある図書館で、ユニバーサルデザインを実践して様々な配慮がされている。

これらの事例から分かる主なポイントとしては、まず、図書館を核とした複合施設の整備に PFI 手法等の官民連携手法を導入することで、商業施設あるいは商業機能との連携や一体整備が可能になっているということが挙げられます。また、運営や維持管理に民間事業者が入ることになるため、より効果的かつ効率的な維持管理及び運営になる可能性が高いこと、イベント等の企画の幅が広がること、商業への集客向上のためにも創意工夫を行えること、そしてそれが公共施設の活性化及び公共サービスの充実化にも繋がっていくことなどが挙げられます。

次に、駅舎と図書館を一体整備することの効果としては、地域の玄関口であることから、地域外から訪れた人たちへの観光案内としての資料が集まった場所となること、電車の待ち時間に利用する人によって、図書館の利用率が上がることなどが挙げられます。同じく駅前再開発等における図書館機能の整備についても、駅と近いことによる集客力の高さと、周辺の商業施設等との連携などが可能になること、駅利用者が時間を有効活用して訪れることができることなどが挙げられます。

本事業においても、第一に白馬村の住民への公共サービスとしての図書館を考えることが重要ではありますが、移住者や観光客、外国人等も訪れることができる図書館機能であること、人が集い賑わう図書館等複合施設であることが求められていることから、これらの先進事例から見受けられる効果を参考に、白馬村の図書館等複合施設を考えていくこととなります。

④民間事業者ヒアリング調査

現時点では、基本計画の策定前であることもあり、官民連携事業への参画意欲等の調査まではできませんでしたが、事業の方向性を決めていくための参考として、現時点での事業に関する印象をヒアリングしました。

候補地の 1 つに JR 白馬駅が挙げられていることから駅関係者へ、立地等を踏まえた事業の印象を図書館等運営に関わる民間事業者へ、それぞれヒアリングしました。内容としては、土地比較検討の視点（①～⑥）を踏まえて、事業者として各候補地に対して魅力を感じるかどうか、実際どのような事業展開が想定できるかについて、ヒアリングしています。

■民間事業者ヒアリング調査結果

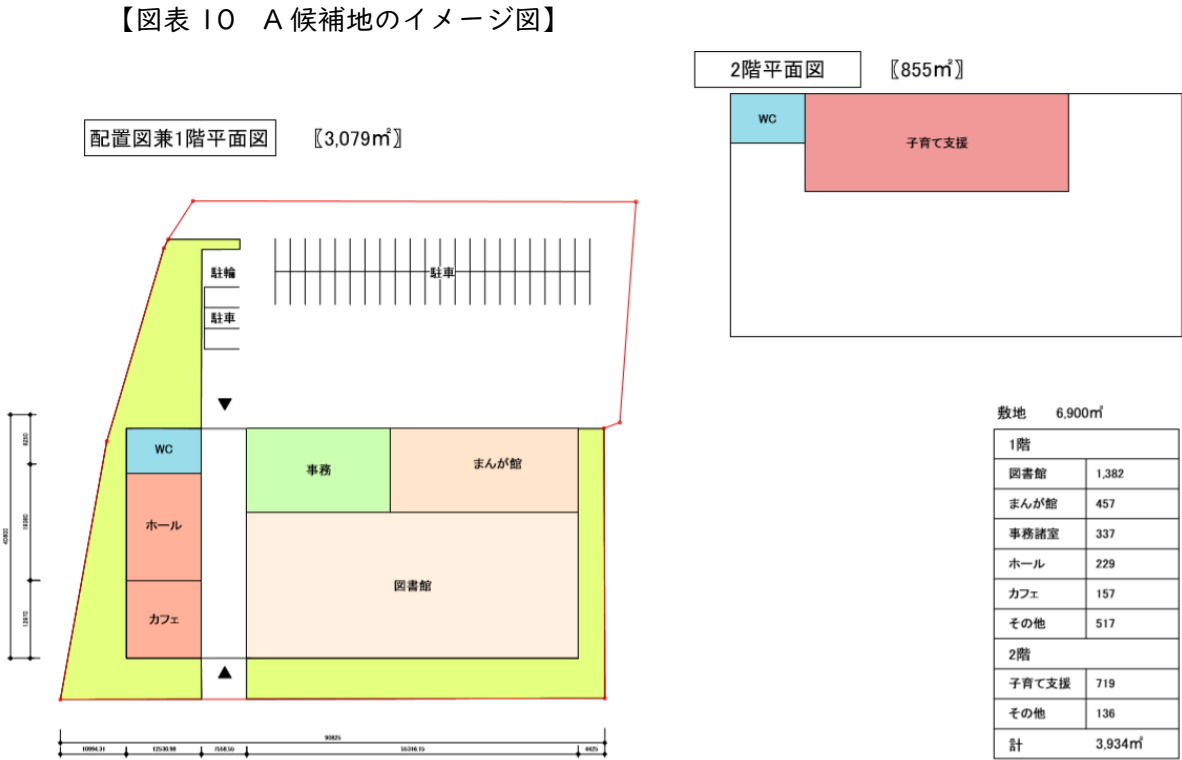
視点	意見
①立地と利便性・周辺環境	・立地場所については、しっかりと現場を見ないと判断し切れないが、指定管理をするという視点だけであれば、どのような場所でも検討はできる。ただし、官民連携手法を導入し独立採算の自主事業をすると、もちろんより集客が見込める場所である方が良い。 ・白馬駅を観光案内所と考え、白馬駅から白馬村全体へ行動できるように、新たな移動手段などとの連携も検討が必要だと考えている。 ・駅の場合は、地域の足となるよう利用者を増やすことや白馬村としてどのようなまちづくりをしていくかという視点が大事になってくる。 ・オールシーズン型で利用できる施設を考え、「リゾート」「テレワーク」「人が行き来する」「働く」といったキーワードが大事。企業も観光客も、滞在できる環境をつくる必要がある。
②面積と形状	・駅になると、駅周辺の土地はきれいに整っているわけではないため、飛び地利用になる可能性もある。
③用地手続きの難易度	・民地を購入するのに費用がかかることなども踏まえると、事業については様々な交付金を活用した方が良い。(国土交通省の社会資本整備総合交付金等)
④建設における課題	・各種機能や規模をどうするかが決まらないと判断し難い。事業費がどのようになるのか、事業手法をどうするのか、交付金が活用できるのか等が重要になってくる。
⑤官民連携に関する事業者の利点	・自主事業を何にするのかにもよるが、自由度が高ければ魅力的な事業を実施できるため、その分集客見込みの高い立地等がより望ましい。 ・公共サービスとして実施する部分と民間の独自事業として実施する部分が相乗効果を生むことで、より質の高い公共空間を創出できるため、自由度のある官民連携事業になると良い。
⑥主要地からの距離	・指定管理事業であれば、正直どこでもやることはできるが、収益も想定した集客施設にしたいのであれば、もちろんアクセスしやすく主要地から近い方が良い。交通手段についても支援事業を行えるのか等の方向性にも影響してくる。

現時点では、事業規模及び事業範囲が明確ではなく、官民連携手法を導入するという方向性が定まっているわけではないため、官民連携事業としての実現可能性についての検討等もこれからであり、民間事業者としても参画意欲を表明できる段階ではありません。しかし、今後の調査検討によって、有効活用できる交付金等により資金面の目途がつくことや事業内容が定まってくること、官民連携手法を導入するとなった場合には、民間事業者の自由度が高い発注にすることで民間事業者から見た魅力度の高い事業となるだろうという意見がありました。

(3) 建設候補地比較検討内容

本章Ⅰ(2)で検討した結果を踏まえて、A 候補地及び D 候補地の 2 つの候補地について、さらに深く比較検討しました。なお、候補地の形状や面積等も踏まえて、イメージ図では数字に差が生じていますが、最終的には第 4 章で示す規模を目指して調整していきます。

A 候補地については、基本構想に基いた各種機能を入れることを想定して単純に必要な面積を入れた場合、次のようになります。



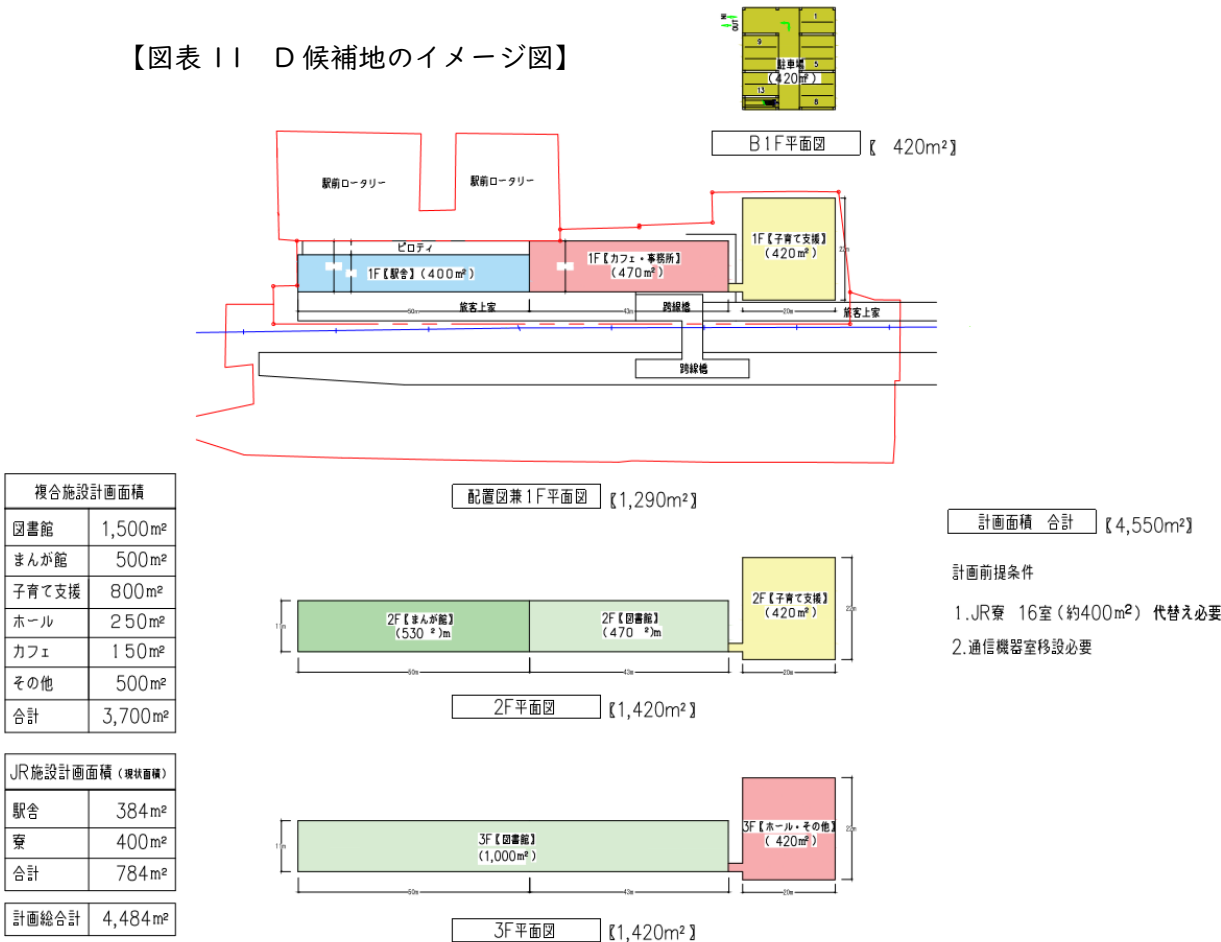
A 候補地の地域住民の利便性については、近隣に役場やスーパーマーケットがあること、主要道路や近隣学校へのアクセスしやすい距離であることなどから、子どもから高齢者まで利用しやすい場所にあると言えます。同時に、民間のアウトドア用品店及びカフェがあることで、観光目的の利用者が非常に増えてもいます。

一方で、駐車場について、周囲の施設とのシェアが必要なことや、2階からの山岳の景観を大事にしている民間施設によるカフェがあるため、それらの兼ね合いで、敷地面積内の建物を建てられるエリアが非常に限定されることが課題となります。

基本構想で示している各種機能は、計算上面積内に納まりますが、建物の形もある程度限定され、そしてその中に機能を入れてもらう収まる見込みであり、余裕があるとは言えません。空間の作り方をいかに工夫できるかという点について、民間のノウハウをどこまで活かせるか、官民連携手法を導入する場合もどの程度魅力的な事業にできるかが重要になると考えられます。

同様に、D 候補地についても必要機能の面積を当てはめると、次のようになります。

【図表 11 D 候補地のイメージ図】



今回駅舎での検討を進めるにあたり、白馬村は、JR 白馬駅を検討候補地にすることについて、JR 東日本長野支社へ協力依頼を正式に行い、資料提供を受け、検討を重ねています。上記図面も、現時点で可能な範囲での検討図面であり、機能を当てはめてみた状態です。

D 候補地、すなわち JR 白馬駅の駅舎に機能を入れる場合は、A 候補地と異なり、駅舎機能を入れる必要があることと、現在の白馬駅内にある JR 社員寮の面積分をどのように入れるか、あるいは、どこに移設させるかという点が課題としてあります。機能が入るかどうかという点においては、現状の駅舎の面積内で計算すると、社員寮を含まずに計算すれば、基本構想で示している必要面積は、かろうじて入ることになります。

ただし、社員寮の場所は、D 候補地の敷地内に整備できることが最も良いものの、駅業務に支障のないエリアへの移転は検討の余地があることと、マンガ館の機能については、有識者の見解にもあったように、駅の場合はピロティにマンガコーナーを設置する考え方も良いという見解であること、設計の方法によっては、少し面積を広げることやスペースを上手に活用することで、必要最低限数の社員寮は確保できる可能性があると考えています。

また、鉄道に隣接する場所の工事については、駅利用の継続が前提となる場合、工事時間の制限や駅利用者の安全確保のために、整備費用が割り増しになることもあります。今後 JR 白馬駅で検討を進める場合には、JR 東日本とコスト削減を検討すると共に、駅の拠点性を活かした官民連携の可能性を探る必要があります。

整理すると、A～D 候補地の比較検討の段階では A 候補地及び D 候補地は同点の評価だったものの、有識者ヒアリングや民間事業者ヒアリングの結果として、白馬駅と一体で整備することによる効果への期待度の方が、A 候補地よりも圧倒的に高くなりました。この結果については、観光面や地域の経済循環の視点、民間事業者の参画やノウハウの活用の視点、新たなビジネスや価値の創出の視点などから、D 候補地の方が魅力的であるという結論になっています。

一方で、A 候補地の方が住民の利便性が高いのではないかという視点もありました。確かに買い物や役場利用者等にとっては利便性が高くなりますが、電車通学の生徒などいるため、必ずしも駅が観光客だけに利便性が良いというわけではありません。

これらの比較検討を整理するために、本章 1 (2) と同様、「◎＝5 点、○＝3 点、△＝1 点」と配点し、A 候補地及び D 候補地における比較評価結果として整理しました。(×がある場合は、そもそも検討対象にならないと考え、◎○△としました。) 評価結果は、次のとおりです。

■A 及び D 候補地の比較検討結果

A～D の 4 候補地における比較検討時の A・D 候補地の評価結果 ※本章 1（2）より		
視点	A 候補地	D 候補地
①立地と利便性・周辺環境	◎ 多機能が集まっており、立地も利便性も良い。	◎ 立地も利便性も良く防災面でも活用しやすい。
②面積と形状	○ 形状は良いが面積は他との兼ね合いで要調整。	△ 面積も形状もどのように線を引くかによる。
③用地手続きの難易度	△ 民地のため、交渉と用地買収が必要。	△ JR との交渉次第となる。
④建設における課題	△ 隣接する施設と要調整。	△ 駅舎や周辺施設と要調整。
⑤官民連携に関する事業者の利点	○ 官民連携は可能だとは思いますが面白みが少ない。	◎ 駅と一体で魅力的な事業を生み出せる。
⑥主要地からの距離	○ 小中学校とは少し離れるが主要道路から近い。	○ 高校のみ離れるが主要道路や小中学校は近い。
①～⑥合計点	16	16
A・D 候補地の比較における再評価結果		
視点	A 候補地	D 候補地
⑦観光の視点による利点	○ 駅と比較すると、観光客は少ない。	◎ まちの玄関口として駅は最適である。
⑧住民の視点による利点	◎ 役場やスーパーなどがあり便利。	○ 駅利用者の人口割合は少ないが、駅利用者や駅周辺住民の期待は高い。
⑨官民連携の魅力	△ 駅と比較すると、事業展開の幅や独立採算事業の可能性が低くなる。	◎ 駅舎との合築になることで、公共施設単体の時よりも民間ビジネスの可能性が広がる。
⑩駐車場確保	○ 現在あるスーパー等の駐車場と一緒に使うのであれば確保できる。	△ 駅隣接だと足りないため、近隣の土地を上手に活用する必要がある。
⑦～⑩合計点	12	14
①～⑩合計点	28	30

これまでの経緯を踏まえて、本事業については、現状 D 候補地を最優先選定候補地として検討を進めていくこととし、住民目線及び観光目線の両方で納得のいく利便性のある施設整備を検討していきます。ただ、住民の利便性を左右する大事な要因の一つに、駐車場の確保があります。D 候補地の場合、駐車場の整備場所を確保できるのかどうかという課題が残っています。

駐車場の確保、官民連携事業として成立させるための条件整理、その他必要な調査及び調整等については、白馬村による JR 白馬駅周辺用地の確保及び JR 白馬駅の土地・建物を所有する JR 東日本との協議を重ねる必要があるため、今後の事業の進め方を踏まえて、次章に基本計画をまとめます。

第4章 基本計画内容

新たな図書館等複合施設基本計画として、基本構想を踏まえた各種調査及び検討の結果、次のように基本計画を策定します。

Ⅰ．新たな図書館等複合施設の整備方針

（Ⅰ）施設整備の基本方針

新たな図書館等複合施設の整備については、図書館機能、子育て支援機能を核としつつ、基本構想でも掲げた「多様な創造性と出合い、豊かな未来へ誘う道しるべ」というコンセプトのとおり、「多様な創造性と出会う」ためのサービス内容も充実させた「交流型」かつ「滞在型」の施設を整備することで、新施設が「豊かな未来へ誘う道しるべ」となることを目指します。

整備予定地としては、JR 白馬駅を最優先候補地とし、今後、JR 東日本との協議等を重ねながら事業内容を確定していきます。同時に、民間活力の導入を目指し、官民連携事業としての実現に向けた可能性調査等を行っていきます。

（Ⅱ）施設機能

ヒアリング調査から出た下記の①～⑤の内容を踏まえます。基本構想で整理した「8つのサービス」（ⅰ～ⅱⅱⅱ）と、「5つの機能連携」（ⅰ～ⅱ）の計画を整理します。

- ①外国人に開かれた場所になり、外国人及び外国の文化と触れ合える場所であること。
- ②小さな子どもから高齢者まで、幅広い世代が学び、交流できる場所であること。
- ③図書館をきっかけとし、様々なジャンルと触れ合える場所であること。
- ④地域住民でも観光客でも、あらゆる白馬村の情報が得られる場所であること。
- ⑤交通の面でも行きやすく、白馬村の自然環境を活かした場所であること。

■ 8つのサービスに関する計画

サービスの内容	具体的な方向性
i 「地域の仕事を 知る」事業展開	「地域の仕事」とそれに繋がる「文化」「歴史」「人」を知ることが できる場を創出し、それらを踏まえた体験企画やセミナー企画、交流企 画等を実施していくことで、村民が地域のことを知るだけでなく、白 馬村を訪れる人たちの学びの場にもします。
ii 多世代・多言語 の新聞・雑誌等の サービス	白馬村に訪れる外国人が、白馬村や日本のことを知るために読むこと ができる資料を用意します。また、白馬村に暮らす子どもたちが幼い うちから異文化に触れられるよう、多言語表記の絵本や物語本、マン ガ等を多く揃え、大人たちが気軽に英語に触れられるよう、英語表記 の雑誌や新聞等を設けます。
iii 子育て支援と しての図書館(子 ども図書館)	乳幼児が落ち着いて本を楽しめる環境及び一緒に訪れた保護者もゆっ たり楽しめる空間を整備します。また、小学生からの成長過程に応じ て読書を楽しめるようなラインナップと空間づくりを目指します。ラ インナップについては、世界各国の絵本や児童書を取り揃え、海外か らの定住者や来村者も活用できる白馬村ならではの国際交流型子育て 環境を創り、子育て世代も喜ぶ環境を目指します。
iv ネットワーク システムの活用	学校図書室との連携や地域拠点との連携を図り、巡回文庫や巡回イベ ント等を実施することで、整備地から離れたところの住民も本事業の サービスと繋がることのできるネットワークの構築を目指します。ま た、駅を拠点として検討を進めることを踏まえて、白馬駅とバスター ミナル等もネットワークに取り入れることで、本をツールに地域拠点 や観光拠点が繋がるような仕組みを検討します。
v 地域住民が世 代を超えて学ぶ 場	多世代が自分たちの調べたいものを調べられるように、幅広いジャン ルの書籍を置き、レファレンスサービスを充実させます。また、読み 聞かせボランティア等による地域の人と子どもたちの交流などももち ろんですが、施設で開催されている企画や設けられているコミュニケ ーションスペースなどで、訪れた高齢者と子どもたち、外国人と子育 て世代の人たちなど、新たな施設での新たな出会いが生まれることで、 地域について知ることや新たな企画を生み出すことなどに繋がり、学 びや交流を深めていくことを目指します。

サービスの内容	具体的な方向性
vi 地域資料の保管・活用	白馬にちなんだ山岳や自然についての本を増やし、八方地区にあるようなオリンピックやスキーに関する資料も気軽に見ることができるようにします。また、村内での恒例行事や定期発行のフリーペーパーなどもアーカイブしていきます。
vii 人材育成と起業支援	新たな施設を訪れた人たちが、自分の「やってみたい」何かを実践できる、あるいはその実践を応援できる場にします。また、地元民だけではなく、移住者や海外からの長期滞在者も活用し、新たな出会いやビジネスの創出に繋がるきっかけの場所となることを目指します。そのためにも、地元の事業者とのネットワークを大事にする拠点になります。
viii 情報基地（知の拠点）としての役割	多世代かつ村内外の人たちの欲しい情報が提供できる拠点を目指します。また、それぞれの対象に おすすめできる情報を発信していく拠点とします。そして、発信される情報から白馬村のまちづくりを知り、さらなるまちづくりに繋がっていくことを目指します。

■5つの機能連携に関する計画

サービスの内容	具体的な方向性
i 子育て支援施設との連携	【子育て支援施設】【子ども図書館】 図書館と子育て支援施設機能が一体整備されることを活かし、サービスとしても空間としても連携の取れた場をつくります。子どもたちが、雨や雪の日も遊べる屋内遊戯機能を設け、子どもたちの保護者にとってもゆったりと安心して過ごせる空間整備をすることで、親子共に喜ばれる施設を整備します。 【親子企画】 知の拠点、情報の拠点、交流の拠点として機能する新たな施設を目指していることから、子育て支援としての企画はもちろんのこと、様々な企画を提供します。また、屋外での遊び方なども学ぶことができる企画も検討します。
ii 健康・医療との連携	【医療企画】 病気についての知識や健康づくり、スポーツなどについて、様々な調べられる情報を集めます。その際、その他の様々な機能（図書館機能

サービスの内容	具体的な方向性
	や子育て支援機能、その他交流機能）とも連携し、既成概念に捉われない、音楽やアートも取り入れた健康促進効果などを企画検討していきます。そして、それぞれについて気軽に知ることができるセミナー企画や体験企画を実施します。
iii 交流を生み魅力を高める機能	【アート】白馬村にゆかりのあるテーマでのアートの制作や国内外のアートを知る企画などを通じて、白馬村と世界をアートという切り札で繋ぐような体験企画や展示企画が可能な場にする事で、村民も、国内外からの来訪者も同じものを楽しみ、共有し、交流できることを目指します。そのために、アーティスト・イン・レジデンスによる芸術家の誘致や交流等も促進していきます。 【マンガ】 ティーンズの居場所になることも目指し、マンガを導入しますが、マンガ喫茶のようなものではなく、「これも学習マンガだ！」（日本財団による、楽しみながら学ぶことを推進する事業）に選ばれているような厳選されたマンガを置くことにします。また、英語表記のマンガ等を置くことで、英語を学べるだけでなく、海外からの来訪者が日本のマンガ文化に触れることができるようにします。その上で、さらに実際にマンガを描いてみるような体験企画から、学びたいことや知りたいことを図書館で調べることができるという連携、日本文化を学ぶ体験企画などに繋げることを目指します。 【ホール】 駅利用者や図書館利用者などがホール企画を知ることができ、上質な音楽企画や舞台企画等も、気軽に参加できるようにします。一方で、ホール自体は上質なコンサート等にも対応できる造りにすることで、海外からの楽団誘致等も可能にし、村外からの来訪者も楽しめるコンサート企画等を行います。また、子育て支援機能とも連携することで、例えば「0歳からのクラシックコンサート」（本事業有識者の中澤宗幸氏が開催している）などの企画を行うことで、乳幼児と保護者が一緒になって良質な音楽と出会える企画も可能です。
iv 交通アクセス	【立地】【駅の活用】 本事業の最優先候補地が、駅というまちの玄関口であることから、バ

サービスの内容	具体的な方向性
	スやタクシー、その他今後発展していくモビリティによる交通の拠点になり、また、駅利用者等の居場所としても機能することで、集客と利便性を向上させます。また、駐車場を十分に確保できるよう、JR 白馬駅の東側の土地の活用を検討します。
v 環境への配慮	【エネルギー】【景観】 白馬の美しい自然環境と景観を維持できるようにし、かつ、環境に優しい素材やエネルギー使用なども視野に入れて検討していきます。また、そういった取り組みや自然について知ることができる企画等も検討していきます。

(3) 施設規模

施設規模については、基本的に次の規模をベースに具体的に検討していきます。

■新たな図書館等複合施設の施設規模

機能	想定面積			備考
図書館機能	1,500 m ² 程度	一般書 地域・行政資料 青少年 児童書 ブラウジング AV・インターネット 学習室 バックヤード	350 m ² 程度 150 m ² 程度 40 m ² 程度 180 m ² 程度 30 m ² 程度 70 m ² 程度 180 m ² 程度 500 m ² 程度	白馬村民の人口に適した面積に加え、白馬村への観光客や長期滞在者の人口を加味した面積とします。
子育て支援機能	800 m ² 程度			昨年度、白馬村図書館等複合施設基本構想で示された、白馬村子育て支援ルームなどの規模を参考とした子育て支援機能の規模及びそれを基に規模の精査を行い、令和元年7月に

機能	想定面積	備考
		白馬村教育委員会から白馬村に対して提出された要望書を参考に、算出した面積とします。
ホール機能	250 ㎡程度	約 200 席程度のホールを想定した面積とします。
マンガ館機能	500 ㎡以内	「マンガ館」として設けるならば 500 ㎡程が望ましいと考えられますが、カフェやピロティにマンガコーナーを設置する等であれば、専用面積は減らすことができます。
カフェ機能	150 ㎡程度	軽食が可能なカフェスペースを想定していますが、具体的な規模には民間事業者へのリサーチが必要です。
その他	500 ㎡程度	フリースペースやその他必要なサービスなどに充てる場所として、500 ㎡程度内で要調整となります。
合計	3,700 ㎡以内	現状想定される妥当な総面積です。

今回検討している図書館機能及び子育て支援機能の規模だけでも、非木造の施設を標準的に建設した場合、10 億円程度かかることが想定されますが、今回の建設候補地は駅となるため、駅利用者の安全確保等から、標準的な工事よりも建設費用が割高となることもあります。

一方で、駅であることにより、官民連携手法の導入で、民間資本を活用できる可能性も高いため、白馬村の財政負担の軽減と民間の創意工夫による質の高いサービスの提供や空

間創出の実現の可能性もあります。そのため、その実現可能性を調査するために、次年度で官民連携事業の実現可能性調査をします。

また、駐車場については、常時約 50 台分の駐車が可能になるよう、周辺の土地の活用も含めて検討していきます。同時に、今回はホールの整備も検討していることから、ホールでの催しやその他イベント開催時に連携可能な駐車場用地も視野に入れて検討します。

これらを踏まえて、詳細の数字については、関係者との協議の上で、具体的に確定することとします。

(参考：建設費については、㎡単価での計算で、図書館部分約 7 億円、子育て支援部分約 3 億円と想定。その他の複合機能や共用部等については、機能の詳細や設計によって変わるため、今後具体的に計算。)

2. 具体的な施設機能

(1) 図書館機能

①書架・家具・サイン・デザインに関する計画

書架	・配架する資料に適した寸法（幅・高さ・奥行）のデザインを検討します。 ・将来の蔵書冊数の増加を見越した寸法・数量・レイアウトを検討します。 ・使いやすく、かつ長期間の使用や書籍の荷重に対応できる丈夫さ、耐久性、安定性のある書架を検討します。 ・地震の際に書架が転倒しないように、形状や転倒防止固定に配慮します。 ・棚間隔は配架する資料の判型に合わせて細かいピッチで調整できるものとし、棚板は地震時等に備えて落下防止対策が施されたものとします。 ・落下防止対策として、落下防止シートを棚板に敷くなどを検討します。 ・書架の高さは利用者や職員が目的の資料を探しやすく、取り出しやすいようにします。 ・児童コーナーの書架は、子どもが本に興味を持てるように、表紙を見せる展示ができ、手に取りやすい高さとしています。
机・椅子	・高齢者や障がい者を含む様々な利用者が、用途に合わせて使いやすく、疲れにくいことに配慮し、落ち着いた読書ができる閲覧テーブルや椅

	子、個人で研究や学習するのに適した衝立や照明のある個人用デスク、くつろいで新聞や雑誌を読めるソファ、グループでの学習時に組合せの変更や可動ができるテーブル・椅子、書架脇で座れるスツールなどを検討します。 ・車いす用の閲覧テーブルなど、障がい者の利用に合わせた机・椅子を検討します。 ・閲覧テーブルは、円形や正方形、個人用や多人数用などを検討します。 ・児童コーナーは、安全性に配慮し、遊び心のある楽しい家具を検討します。 ・親子で読み聞かせができる親子読書席や大きめの椅子を検討します。 ・子どもが寝転んで絵本が読める椅子などを検討します。
その他家具	・全ての家具は、建物の外観や内装等と調和するものを検討します。 ・カウンターは、受付、貸出、返却からレファレンス業務など様々な作業が効率的かつスムーズにでき、長時間の運用に適したものを検討します。 ・OPAC（利用者端末）台等は、対象者や用途に合わせて、機能的でゆとりのあるものとします。 ・PCやOA機器等を設置する家具については、機器の設置や電源、配線、メンテナンスに配慮します。 ・新刊本展示や郷土資料の展示、貴重な資料を展示するケース、最新刊とバックナンバーに対応した新聞・雑誌架など、様々な用途に合わせた家具を検討します。
サイン	・家具に設置するサインは、建物に付随するサインと統一感のあるデザインを検討します。 ・様々な利用者が認識しやすく分かりやすいよう、色や大きさ、位置等に十分配慮し、図書館の雰囲気大切にしたものを検討します。 ・利用者が目的の場所まで、容易に到達できるよう誘導できるものを検討します。 ・将来的なレイアウトや収蔵資料の変更にも柔軟に対応できる、フレキシブルなものを検討します。
ユニバーサルデザイン	・児童、高齢者、障がい者、外国人など様々な人が利用する図書館は、利用者一人一人の動向を深く理解したサービスを継続的に実施していく

	ことを検討します。 ・ 図書館の内外に渡って段差の少ない床構造(バリアフリー)を取り入れ、アプローチに関しても自動扉・点字ブロックや誘導ステッキシステムを設置する必要があります。 ・ 2階以上の建物とする場合には、エレベーターを設け、階段には2段手すりを設置するなど、様々な対策を検討します。 ・ 高齢者サービスとして、単に高齢者コーナーを設けるといったものではなく、高齢者が生きがいを見つけ出すためのイベントや資料による企画など様々な機会提供することを検討します。 ・ 高齢者問題に取り組むための資料提供なども検討します。 ・ 高齢者を取り巻く環境の中で、どのような地域社会を築いていくかを考えるきっかけを図書館から提供することを検討します。 ・ 障がい者サービスとして、心身障がいだけでなく、図書館利用に障がいのある人へのサービスなど利用者の独自の要求をよく理解した対応を含めて検討します。 ・ 点字図書・大活字本・録音図書といった資料の収集だけでなく、既に北欧で導入されているトークブック（新聞・雑誌をも含む録音テープの作成とその宅配ネットワーク）、対面朗読サービス・手話サービス・口述筆記サービスなど、職員を中心にボランティアの協力を得て充実させることを検討します。
IoT・ICT	・ 自動貸出機や予約棚などの導入により、利用者の利便性が上がるだけでなく、カウンター業務を軽減し、職員が選書や対人サービスに専念できるように検討します。

②白馬村資料収集基本方針

図書館は、住民の自己啓発や地域づくりなどに貢献していく施設であり、新たな図書館等複合施設における図書館の資料収集については、これまでの方法から新たな方法も踏まえて、白馬村に相応しい資料収集方法及び多様性のある蔵書計画を目指します。

図書の購入については、出版界や学校図書資料、外国資料に長けた地元（白馬村周辺）の書店や取次店と協議を行い、積極的に購入を行うことを検討していきます。

以下、これまでの現状調査やニーズ調査、有識者からの意見等を踏まえて、資料収集における基本方針（案）として具体的な検討に進むこととします。

資料収集基本方針（案）

- ❶蔵書構成全体に配慮し、十分な資料を網羅的に収集するとともに、調査・研究のため、オンラインデータベースを提供する。また、子育てに関連する資料収集を重視し、学校図書館とも連携を行い予算・資料の有効な活用を図る。
- ❷収集に当たっては、選書会議を設け、多様な観点に立ち資料を幅広く収集し、職員の合議により選書を行い、最終責任は図書館長が負うこととする。
- ❸オリンピック、スキー、山岳などの白馬村の特徴とされる郷土資料については、積極的に収集するとともに、行政資料・地域資料も郷土資料として扱い、欠落のないように収集する。また、通常の出版社から出版されたものにこだわらず、広範な要求に応えるためにパンフレット・図録・雑誌・視聴覚資料等も収集する。観光資料及び村内で活動する団体から発行された資料、または、政策に関する資料・歴史的資料などは網羅的に収集する。
- ❹児童図書は、絵本、長く読み継がれる良書を選書し、学校図書館と連携を進め、子どもが楽しむことのできる幅広い資料を収集する。乳幼児ブックスタート事業に関連し、乳児向けの絵本は積極的に収集する。
- ❺逐次刊行物は、新聞・雑誌は最新の情報源として、全国紙・地域紙の割合を検討し収集する。白馬村に関する新聞記事や地場産業を扱った資料は、積極的に収集し製本永久保存する。
- ❻点字・録音資料の収集については、他機関との相互協力による資料提供を考慮し、収集・作成する。
- ❼雑誌は資料的価値の高いものを選択し、収集する雑誌のタイトルは年1回見直すこととする。
- ❽視聴覚資料は、教育的価値及び普遍性・地域性等、図書館資料として価値の高いものを収集すると共に評価の定まった古典的作品・権威ある賞の受賞作品に留意する。
- ❾マンガを資料として考え、学びに活きる200作品が選出された「これも学習マンガだ！」を参考に検討する。「学習マンガ」は、一般に学校で習う教科の理解を助け、マンガという読みやすいかたちで知識を深めることができる。
- ❿資料の適切な維持・管理を図るために必要な資料の除籍を行う。廃棄による除籍、事故等による除籍、亡失による資料、所在不明資料、回収不能、合本、製本、移管による除籍とする。

また、MARCやIC機能での管理を含む蔵書管理及び白馬村ならではの資料収集、保存、活用に繋がるアーカイブ機能については、次の方針とします。

- ①後世に伝えていく、残していくための白馬村独自の資料として、八方地区に保管されている資料（オリンピック、スキー、山岳関連など）を図書館管理システムでの管理し、デジタルアーカイブ化を検討する。
- ②デジタルアーカイブ化された資料は、保管するだけでなく、資料に関するこれまでのプロセスや現在の様子を綴り、物語として表現し伝えていくこととする。また、表現されたものは、タブレットやデジタルサイネージ等で閲覧できるようにする。

③運営の考え方

図書館運営そのものについては、図書館内の整理整頓はもちろんのこと、レファレンスサービスの実施等における適切な業務を担える司書の資格を持つスタッフがいることが重要です。加えて、図書館を核とした子育て支援の視点や地域の拠点としての交流の視点、情報発信や体験企画等の視点も必要になるため、司書以外にも様々なスキルを持ったスタッフがいることが、より充実した図書館運営に繋がる可能性があります。

本事業においても、しっかりした図書館サービスの実施のための司書スタッフと、幅広いニーズに応えるための各種スキルを持ったスタッフを配置することにより、複合施設であり村内外の人々が行き交う拠点としての図書館に相応しい運営を実現させることを目指します。

図書館の運営手法という観点では、直営のほか、指定管理者制度の導入も考えられますが、本事業においては官民連携手法の導入も検討しているため、今後の官民連携手法導入における検討の中で、事業規模や事業範囲の検討を踏まえて運営手法を決めていきます。

（２）子育て支援機能

新たな図書館等複合施設における子育て支援機能については、大きく次の３つの機能を核として設ける方針で進めます。

■子育て支援機能の核となる３つの機能

主な機能		イメージ
①子育て支援センター機能	活動スペース	活動スペースと遊戯室は、広々とした明るい雰囲気の中で、一体的な部屋として整備します。ただし、クッションブロック等で仕切れるようにすることで、自由な遊びの場づくりをします。
	遊戯室	

主な機能		イメージ
	相談室	相談室は、6～7名程度が座れて、車椅子の利用者の出入りにも対応できる部屋を設けます。面積は20㎡×2室とします。
②各種教室・児童館		スペースを有効に活用するために、児童館の「児童室」と各種教室の「保育室」を一体的なスペースとして、多目的室として整備します。全体としては、120㎡を想定しています。ただし、可動間仕切り等を活用することで仕切れるようにします。
③屋内型広場		屋内型広場には、シンボルとなる大型遊具を設置し、天候に左右されることなく、年間通して子どもたちがダイナミックかつ自由に遊べる空間にします。

屋内型広場については、エアー遊具や屋内アスレチックなどの、身体を動かして遊べる機能があることで、雨の日も雪の日も子どもたちを連れて行ける場所を創出できます。例えば、昨年度村が視察した山形県東根市の総合保健福祉施設内にある「さくらんぼタントクルセンター」は、シンプルに坂道やネット遊具、円筒などを上手く組み合わせた遊び場になっています。本事業ではそこまで大きな施設は整備できませんが、規模を小さくしても十分参考になる施設です。このような参考事例を踏まえて、本事業の規模に合わせつつも、身体を存分に動かして遊ぶことができるアスレチック機能の導入を検討しています。また、東京都港区にある民間事業の「レゴランド・ディスカバリー・センター東京」のような、レゴに限らず大人と子どもが一緒になって、あるいは言語の壁を越えて、発想を巡らせながら遊ぶことが可能なおもちゃコーナーも検討していきます。

本事業が図書館機能の複合であることを活かし、おもちゃなどで遊びながらも学べるような学習遊具、絵本などを備えた、子ども図書館的な要素を持った子育て支援環境の創出を目指します。この環境を図書館エリアと、子育て支援エリアのどちらとするのかは、今後の設計等にも関わってくるため、現時点では分けにくいですが、図書館機能と子育て支援機能が相互に連携して効果を生むことで、子どもも遊べて大人も楽しめる施設整備を目指します。

また、食育関連事業を実施する場合は、別途調理室機能（50㎡程を想定）が必要になるため、今回の複合施設内でどのようにその機能を取り入れることができるか、検討していきます。

上記の内容を踏まえて、その他必要な諸機能を含む具体的な施設規模は、次の規模を目安に具体的な設計検討を進めます。

■子育て支援機能の必要諸室

子ども・子育て支援機能	諸室	面積
子育て支援センター機能 (子育て支援拠点事業)	プレイルーム	152 m ²
	調理室機能	50 m ²
	相談室	40 m ²
	静養室（おむつ替えコーナー含む）	25 m ²
一時預かり機能（休日含む）	保育室	40 m ²
	乳児・ほふく室	50 m ²
放課後児童クラブ	児童室	80 m ²
	静養室	20 m ²
児童館・各種教室	多目的室	120 m ²
	静養室	30 m ²
屋内型広場	大型遊具を備えたプレイルーム	220 m ²
合計		827 m ²

このほか、今後のその他の機能等との兼ね合いも図りつつ、子どもたちが自由な発想で遊べるような屋外広場の整備（400～500 m²程を想定）も検討していきたいと考えています。

（３）その他機能

①ホール機能

ホールについては、200 席程度の規模で整備します。本事業において整備するホールは、村民の活動発表や親子企画にも活用していきたいと考えているため、ステージと客席を分け隔てるのではなく、フラットな空間づくり、そして、親子で楽しめるようなアットホームな空間づくりを目指し、一方で、上質な音楽演奏などを楽しめるよう、音響等の設備は充実したものを検討します。

また、例えば、オーストラリアやアメリカ、カナダ、ヨーロッパなどの山岳国立公園と連携して、各国から有識者が集いグローバルな気候変動や山岳自然環境問題など国際的に取り組みが必要なテーマに沿って話し合う研究交流センター機能をも視野に入れます。

②マンガ館機能

マンガ館機能については、最有力候補地が JR 白馬駅となったこともあり、有識者会議での意見等も参考とした上で、マンガ館としての整備ではなく、ピロティ空間やカフェスペース等を有効活用する方向性でのマンガの活用をしていきます。ただマンガを点在させるのではなく、若者に向けた学習マンガの充実したコーナーづくりや、外国人が日本文化を知ることができるようなマンガの配置及びマンガ文化の体験企画、そして、英語を学ぶことができるマンガの配置等、目的を持って選書し、かつ、それらが有効に働くような配置を検討していきます。

③カフェ機能

小さな子どもを連れて訪れ、遊ばせながら保護者がコーヒーやお茶を飲むことができる空間、おやつを食べさせることができる空間等を望む声があったことから、新たな図書館等複合施設にはカフェ機能を設けます。

しかし、近隣の事業者への配慮や本事業に適切な規模のカフェ機能については、今後の官民連携手法導入可能性に関する調査検討の中で、具体的に検討していくこととします。

3. 今後の進め方と課題

(1) 今後の課題

今後の課題とその解決のための取組みとして、次の内容が挙げられます。

課題	解決のための取組み
①JR 白馬駅で事業を進めることを確定するために、条件交渉を成立させる必要があります。	令和2年度中に定例協議を重ねながら白馬村とJR 東日本との条件整理及び交渉を進めます。
②駐車場の確保が可能かどうか、近隣の用地交渉等が必要です。	駅周辺の土地の調査と必要に応じた用地交渉、駐車場整備にかかる費用計算等を行います。
③観光目線のみでなく、住民目線を重視した事業内容及び事業範囲、サービスの質を検討する必要があります。	観光目線のメリットを踏まえたサービス検討もしつつ、公共事業としての事業内容等について、サービス水準となるものを具体的に整理します。

課題	解決のための取組み
④本事業における官民連携事業としての民間事業者の参画意欲を調べる必要があります。	マーケットサウンディング調査として、検討する機能に応じた民間事業者へのヒアリング調査を実施します。
⑤国の交付金等を活用したい場合、どの交付金が活用できる可能性があるのかを調査しておく必要があります。	図書館整備のみに対する交付金が少ないため、国土交通省の社会資本整備総合交付金として申請することなどが想定されますが、民間事業との住み分けや社会資本整備としての位置付けを整理します。
⑥上記①～⑤の調査及び検討を踏まえた上で、事業の実施地として最終確定をし、官民連携手法導入の可否も判断する必要があります。	令和2年度中に、事業の内容及び手法を確定する方向性で進めます。

上記の他に、複合していく子育て支援センター機能として、東側のエリアも上手に活用していくことで、本事業で検討していきたい屋外広場と合わせてスポーツの場の展開やアートのフィールドの開放ができれば、より魅力的な事業となります。ただし、現時点ではその可否まで判断できませんので、現在進行中の計画案と同時に、実現性を判断しつつ東側を視野に入れた計画案も併せて考えていく視点も持って検討を進めます。

また、駅舎機能を含む場合、駐車場用地の確保や建設費等予算はかなり増額することが想定されます。しかし、ただの増額ではなく、官民連携手法の導入を検討することで民間資本の活用を視野に入れていることと、新たな施設整備後の地域の将来性やより発展的な事業に広げていくためにも、魅力的かつ持続可能な施設整備が必要と考えた場合、イニシャルコストが高くなったとしても、その後の維持管理及び運営に係るコストに目を向けた検討が必要です。

上記の課題も踏まえて、新たな図書館等複合施設が交流センター的な役割を担い、地域創生の発展事業として、JR東日本と協議・協力しながら県や国を巻き込んで財源確保に当たるようにしていく取り組みが重要となっていきます。

これらの内容を踏まえて、令和2年度に調査及び検討を進めていきます。

(2) 今後のプロセス

令和2年度以降のプロセスとして、次のスケジュールを理想的なものとして想定しています。今年度の調査及び検討を踏まえて、最優先候補地を JR 白馬駅としたことによって、JR 東日本との具体的な条件整理及び交渉を要することから、平成 30 年度に策定した「白馬村図書館等複合施設基本構想」の際のスケジュールと異なっています。

また、JR 東日本との交渉内容によって候補地が変更となる可能性と、官民連携手法の導入可能性調査の内容に応じて、事業手法の検討に時間を要する可能性もあるため、それぞれの工程がずれ、開館が令和7年度になる可能性はあります。それらの可能性も含めて、下記の工程を進めながら、本事業に相応しい要件を整理し、望ましい事業のあり方を検討していきます。

■令和2年度以降のプロセス (→: 予定 / →: 予備期間 / →○: 理想)

時期	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
白馬村・JR 東日本における事業内容の交渉	→	→			
白馬村による必要用地の交渉や取得		→		※	
官民連携手法導入可能性調査及び検討		→			
特定事業の選定、事業者公募及び選定			→		
設計・施工・運営準備等				→	
開館					○

※関係者等との調整や交渉により、スケジュールが変更となる場合があります。

以上

参考資料 図書館参考先進事例集

■図書館×PFI 事業の事例

大和市立中央林間図書館

駅前再開発×図書館×PFI



神奈川県大和市中央林間4-12-1東急スクエア3F
延床面積: 329m²
蔵書冊数: 23,000冊

中央林間東急スクエア内に整備された図書館。2階デッキで駅ビルともつながっており、商業施設と公共施設が合体することで、より利便性が高まっている。商業施設内に自然に溶け込む新しいタイプの図書館をコンセプトに、開放的な空間となっている。

学びの杜のいちカレード

図書館×PFI



石川県野々市市太平寺4-156
延床面積: 2,680m²
蔵書冊数: 130,000冊

図書館と市民学習センターの2つの機能からなる複合施設。図書館を取り囲んで市民学習センターの音楽スタジオ、キッチンスタジオ、創作スタジオ、市民展示室・オープンギャラリー、飲食店が配置されている。市民の学びと文化・芸術・創造、情報発信、市民協働におけるシンボルとなっている。

安城市図書情報館

図書館×PFI



愛知県安城市御幸本町12-1
延床面積: 6,808m²
蔵書冊数: 728,000冊

新中央図書館を核とする中心市街地拠点整備事業として駅前の病院跡地に整備された。図書館を郊外部から中心部に移し、民間の力をいかしながら図書館・商業施設・広場などが、それぞれが集客力を発揮し、互いに相乗効果をあげながら中心市街地のにぎわい創出を図っている。

紫波町図書館

図書館×PFI



駅前の町有地に図書館、ホテル、体育館、カフェ、産直施設などを整備する「オガールプロジェクト」の中核施設として計画された。紫波町の基幹産業である農業に関連する書籍をそろえるほか、農業専門データベースの利用促進や農業にまつわるイベントの企画など様々な農業支援を展開している。

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2-3-3
延床面積:1,574m²
蔵書冊数:91,000冊

■図書館×駅舎の事例

舟橋村立図書館

駅×図書館



越中舟橋駅舎内に併設された図書館。村人一人当たりの貸出数で全国トップを記録した。パークアンドライド方式の駐車場導入も効を奏し、図書館と駅の双方の利用客を増やしている。

富山県中新川郡舟橋村竹内602
延床面積:1,367m²
蔵書冊数:87,000冊

立山町立立山図書館

駅×図書館



五百石駅舎内に立山町元気交流ステーション「みらいふ」として整備された。立山町健康福祉課・保健センター、社会福祉協議会など保健福祉の総合的な機能を集約し、図書館や交流センターなど、暮らしに役立つ公共施設と駅が一体となった複合施設となっている。

富山県中新川郡立山町前沢1169
延床面積:1200m²
蔵書冊数:110,000冊

浜松市立佐久間図書館

駅×図書館



佐久間駅の待合室に併設された図書館。採光と美観のために、天井には佐久間町の民話や自然をモチーフにした5枚のステンドグラスがはめ込まれている。
館内にはガイドブックやウォーキングマップが設置されており、佐久間地域の観光案内所という性格も有している。

静岡県浜松市天竜区佐久間町佐久間2431-3
延床面積:329m²
蔵書冊数:23,000冊

いなべ市立大安図書館

駅×図書館



大安駅に併設された図書館。電車好きな子供連れや電車の待ち時間に利用する客で賑わう。
鉄道図書コーナーを設けており、鉄道関連の本・雑誌・DVDのほか、子供向けの鉄道絵本や入手困難な鉄道会社の社史、鉄道関連のビデオ、DVDまでそろっている。

三重県いなべ市大安町大井田1305
延床面積:501m²
蔵書冊数:43,000冊

■図書館×駅前再開発の事例

あかし市民図書館

駅前再開発×図書館



駅前再開発ビル「ハピオスあかし」に設置された図書館。
同時オープンした大型書店「ジュンク堂書店」との相乗効果もあり、図書館の来館者が4倍、駅前の通行者が4割増えるなど、本のまちづくりを掲げる明石市の賑わいの拠点となっている。

兵庫県明石市大明石町1-6-1/ハピオスあかし4F
延床面積:3,508m²
蔵書冊数:430,000冊

周南市立徳山駅前図書館



山口県周南市御幸通2-28-2
延床面積2,374m²
蔵書冊数:60,000冊

周南市徳山駅前賑わい交流施設として、図書館を核に書店やカフェ、交流室や市民活動支援センターなどが整備されている。
管理運営はCCCが行っており、年中無休で開館しており、周南市や山口県のお土産が並ぶ物販コーナーもある。

桶川市立中央図書館



埼玉県桶川市若宮1-5-2/パトリア桶川店3F
延床面積:1,511m²
蔵書冊数:91,000冊

駅前の商業施設に入居していた駅西口図書館をリニューアルし、中央館機能を持たせた。大型書店、カフェ、イベントスペースと隣接しており、一体型の運営を展開している。
駅前の利便性と大型書店やカフェとの相乗効果で来館者数が激増しており、市外からの利用も多い。

藤枝市立駅南図書館



静岡県藤枝市前島1-7-10 BiVi藤枝3F
延床面積:3,299m²
蔵書冊数:366,000冊

藤枝駅近くの官民複合施設の中にあり、周辺地域からも幅広い世代が集まる施設となっている。
ユニバーサルデザインを実践しており、通路が広く、車いすでゆとりを持ってすれ違えるなど、高齢者、障がい者、子供連れの人等が利用しやすい様々な配慮がされている。